彦根市
スポーツ推進計画

平成２９年３月

彦　根　市

彦根市スポーツ推進計画策定によせて

わが国では、平成23年(2011年)にスポーツ振興法を全面改正した「スポーツ基本法」が施行され、スポーツの意義や価値、スポーツの果たす役割の重要性が改めて認識されました。また、平成24年(2012年)には、「スポーツ基本計画」が策定され、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指して各施策が展開されてきたところです。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定や、スポーツ行政を総合的・一体的に推進するためスポーツ庁の創設など、国全体でスポーツに対する機運が高まってきています。

昨年のリオデジャネイロオリンピックでは、陸上男子4×100mリレーにおいて本市出身の桐生祥秀選手の出場した日本チームが見事銀メダルを獲得し、そのシーンは私たちに大きな感動を与えてくれ、スポーツの素晴らしさを改めて実感したところです。

スポーツは私たちにとって身近なものであり、その関わり方はますます広がってきています。スポーツを「する」ことで楽しさや喜びを感じ、またスポーツを「みる」ことで感動し、スポーツを「する」人の力になることができます。さらに、スポーツを「ささえる」ことで、交流を深め、つながりを創出していくことができるのです。

本市では、これまでも市民が主体となった自立した活動を促進しながら、より多くの市民がスポーツ活動に取り組めるよう支援し、市民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめるよう、スポーツの振興に努めてまいりました。

折りしも、2021年に開催予定のワールドマスターズゲームズ2021関西の陸上競技（10kmロードレース）の開催地となることが決定し、また2024年に開催が内々定している国民体育大会・全国障害者スポーツ大会においては、松原町の（仮称）彦根総合運動公園が主会場として整備されることとなり、本市にとってスポーツを通じたまちづくりを進める絶好の機会と捉えています。

このような中、本市では、目指す将来像を「つながる　広がる　スポーツで彦根はもっと元気になる　～笑顔あふれるひとづくり、まちづくり～」とする「彦根市スポーツ推進計画」を策定しました。今後とも、年齢、性別、健康状態や障害の有無に関わらず、皆様にスポーツを「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的に参画していただくための取組を進めてまいりたいと考えております。

スポーツの主役である市民の皆様、そしてスポーツ団体をはじめ、地域、大学、企業などスポーツに関わる方々と連携、協働し、スポーツを通じてさらに元気なまちを築いてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、ご審議をいただきました「彦根市スポーツ推進計画策定委員会」委員の皆様をはじめ、関係の方々に心からお礼申し上げます。

平成 29 年（2017 年）3 月

彦根市長　大久保　貴

目　　次

Ⅰ　はじめに ……**1**

1 スポーツ推進計画策定の背景 ……1

2 スポーツ推進計画策定にあたっての方向性 ……2

3 彦根市の現状・課題 ……3

Ⅱ　めざす将来像 ……**14**

Ⅲ　基本方針・施策 ……**15**

1　子どもの運動・スポーツの推進 ……16

2　ライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進 ……18

3　地域が主体となった市民スポーツの推進 ……21

4　身近なスポーツ環境の充実 ……23

5　スポーツを活かしたまちづくりの推進 ……25

Ⅳ　計画の推進 ……**27**

1　計画の推進体制 ……27

2　計画の進行管理 ……28

参考資料 ……**29**

1　計画の策定経過 ……29

2　市民等意識調査の実施 ……32

3　指標一覧 ……34

Ⅰ　はじめに

1　スポーツ推進計画策定の背景

（1）全国的動向

近年、少子高齢化が加速し、高齢社会の到来、生涯学習・健康への意識の高まりなどに伴い、スポーツを行う目的や、スポーツの内容も多様化し、行政に求められる役割も大きく変化してきています。

特に、スポーツを通じ、子どもから高齢者までが、健康づくりをはじめ、仲間づくりや生きがいづくりにつなげるなど、多様な価値観に基づくスポーツライフを送る人が増えてきています。

国においては、平成 22 年（2010 年）に「スポーツ立国戦略※1」が策定され、翌平成 23 年（2011 年）には 50 年ぶりにスポーツ振興法が改正され、「スポーツ基本法※2」が施行されました。

同法の施行に伴い、平成 24 年（2012 年）にはスポーツ基本法の理念を具現化した「スポーツ基本計画」が策定され、スポーツによる明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現をめざした具体的な施策が提示されました。

また、平成 31 年（2019 年）に日本での開催が決定しているラグビーワールドカップをはじめ、平成 32 年（2020 年）の第 32 回夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催、平成 33 年（2021 年）のワールドマスターズゲームズ 2021 関西※3 の開催が決定されるなど、全国的にスポーツに対する機運が高まっています。

（2）滋賀県の動向

平成 25 年（2013 年）に「滋賀県スポーツ推進計画」が策定され、今後のスポーツ推進に向けた目標や具体的取組が提示されました。

また、平成 27 年（2015 年）には、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に進めていくため、「滋賀県スポーツ推進条例」が公布・施行され、平成 36 年（2024 年）には、第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会（以下「国体・全スポ」という。）が滋賀県で開催されることが内々定しており、開催に向けた準備が進められています。

（3）彦根市の動向

彦根市では、平成 33 年（2021 年）に開催予定のワールドマスターズゲームズ 2021 関西の陸上競技（10km ロードレース）の開催地となることが決定しました。

また、平成 36 年（2024 年）に開催が内々定している国体・全スポでは、彦根市松原町に(仮称)彦根総合運動公園が主会場として整備される予定であり、彦根市は国体・全スポ運営の重要な役割を担うことになります。

今後、これらの大規模なスポーツ大会の成功に向け、着実に準備を進めていくとともに、大会を通じて、地域の活性化を図っていくことが期待されます。

現在、彦根市のスポーツに関する方針としては、彦根市総合計画やひこね元気計画 21 等で運動・スポーツに関する施策の推進を位置づけています。

※1…文部科学省により策定された将来の日本のスポーツ政策の基本的な方向性を示した方針。「新たなスポーツ文化の確立」を目指す姿とし，基本的な考え方を「人（する人，観る人，支える（育てる）人の重視」と定めている。
※2…「スポーツは，世界共通の人類の文化である」の言葉を前文に謳い，国・地方公共団体の責務やスポーツ努力などを明らかし、また施策の基本となる事項を定めたもの。
※3…ワールドマスターズゲームズは、国際マスターズゲームズ協会(IMGA)が 4 年ごとに主宰する、原則 30 歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会（公式 HP より）

2　スポーツ推進計画策定にあたっての方向性

（1）策定方針

○健康増進、介護予防、観光および文化に関する施策と連携し、障害者スポーツも含め、スポーツを総合的に推進していく計画とします。

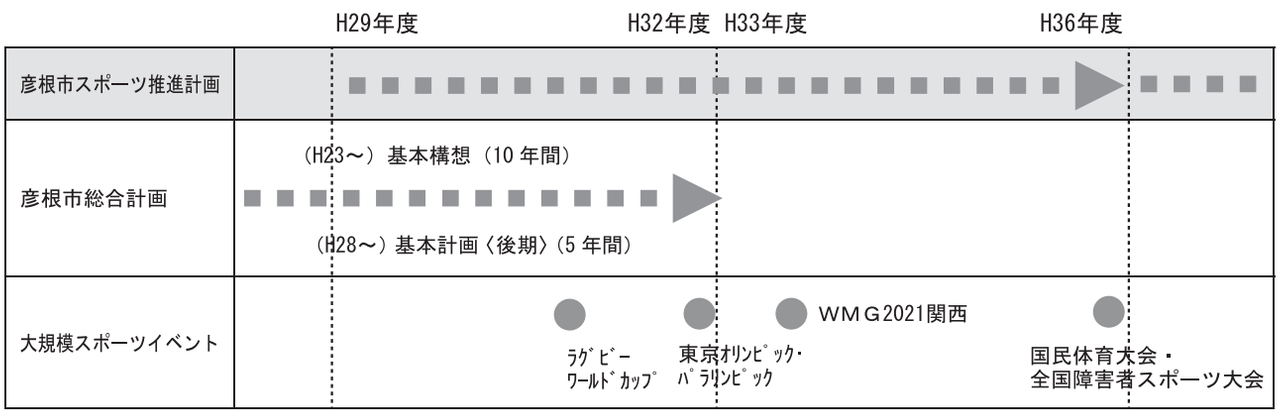
○市民や各種団体と協働でスポーツ諸施策を展開する計画とします。

○国や滋賀県の上位計画、また市の総合計画等と整合のとれた計画とします。

（2）計画期間

彦根市スポーツ推進計画は、彦根市の将来像を見通した上で、平成 29 年度（2017 年度）から８年後の平成 36 年度（2024 年度）を計画期間とします。

今後、社会情勢やスポーツ機運の高まり等を鑑み、４年後の平成 32 年度（2020 年度）に、計画の見直しを行うことを想定していますが、社会情勢の著しい変化や市の財政状況等を勘案し、必要に応じて見直しを行うこととします。



3　彦根市の現状・課題

（1）彦根市総合計画後期基本計画（平成 28 年（2016 年）策定）

○社会生活の利便性追求のため、運動不足を感じている人が多くなっています。
○幅広い年代での健康志向の高まりやスポーツ活動への関心や欲求が高まっています。
○スポーツニーズの多様化に対応するため、市民主体の活動の促進やより多くの市民がスポーツに取り組めるよう支援が求められています。
○新しい市民体育センターの早期整備が求められています。
○国体･全スポを機により一層生涯スポーツに親しむ環境をつくるとともに、スポーツを通じ障害や障害のある人への理解を深め、障害のある人の社会参加を促進する必要があります。
○観光振興や地域経済の活性化につながる魅力あるまちを築くことが求められています。

（2）ひこね元気計画 21（第 2 次）（平成 26 年（2014 年）策定）

○子育てや働き盛り世代の運動をしている人の割合が低い傾向にあり、運動することの大切さを伝える必要があります。
○生涯を通じて運動を楽しく継続できるよう、運動が気軽にできる環境を整備するとともに、市民が楽しみながら身体を動かすことができる機会を増やしていく必要があります。

（3）新体力テスト

○小学生

【現状】

・男女とも、3～5 年生で全国や滋賀県の平均値を上回る種目が目立っています。
・上体起こし、反復横跳び、50m 走では、全国や滋賀県の平均値を上回っている学年が多く、特に 50m 走では 4 年生女子を除きすべての学年で全国や滋賀県の平均値を上回っています。
・握力、20mシャトルラン、ソフトボール投げでは、すべての学年で全国平均値を下回っています。特に低学年男子は滋賀県平均値も下回っている種目が多くみられます。

【課題等】

・全体を通してみると、滋賀県平均値とは大きな差はありませんが、全国平均値と比べると、体力がやや劣っていると言えます。特に低学年で全国や滋賀県の平均値を下回る結果になった種目が多いことから、幼児期から低学年にかけての運動遊びや体力を高めるための取組を継続的に行うことが必要であると考えられます。

■小学生【男子】　　**全国・滋賀県の平均値を上回る**　　**滋賀県の平均値を上回る**

新体力テスト（小学校男子）		男子																	
		1 年生			2 年生			3 年生			4 年生			5 年生			6 年生		
	対象	市平均	H27 県	H26 全国	市平均	H27 県	H26 全国	市平均	H27 県	H26 全国	市平均	H27 県	H26 全国	市平均	H27 県	H26 全国	市平均	H27 県	H26 全国
H27	握力（kg）	8.19	8.87	9.15	10.19	10.42	10.95	12.89	12.34	13.00	13.80	14.18	14.80	16.57	16.08	16.97	18.97	18.98	19.80
	上体起こし（回）	9.39	10.82	11.60	12.86	13.29	14.10	16.56	16.09	16.19	17.05	16.99	18.32	20.17	18.99	20.24	21.37	21.43	22.05
	長座体前屈（cm）	24.09	25.19	25.74	25.95	26.85	27.21	30.31	28.92	29.47	29.96	30.48	30.82	33.68	32.72	32.87	34.56	35.06	34.95
	反復横跳び（点）	26.67	27.46	27.18	28.16	30.58	31.31	34.30	33.96	35.69	36.45	36.28	39.44	44.11	40.89	42.88	45.04	44.85	46.15
	20mシャトルラン(回)	14.98	16.08	18.87	25.99	24.51	28.91	37.11	33.27	39.41	42.45	39.52	46.81	53.43	50.21	54.90	60.11	61.09	63.60
	50m 走（秒）	11.71	11.81	11.52	10.40	10.82	10.58	9.99	10.24	10.02	9.79	9.82	9.56	9.33	9.47	9.21	8.91	9.03	8.85
	立ち幅跳び（cm）	100.24	108.62	114.22	118.55	121.89	126.20	134.67	134.58	137.53	144.76	143.01	145.72	154.28	151.52	155.03	161.64	162.15	166.04
	ソフトボール投げ(m)	7.28	7.72	8.65	10.08	11.18	12.13	16.02	14.96	16.43	18.81	18.32	20.21	22.43	21.81	23.65	25.65	25.55	27.89
	合計点（点）	25.20	28.56	30.35	34.40	35.64	38.02	44.10	42.19	43.56	45.70	47.03	49.88	54.20	52, 91	54.98	58.80	59.52	61.37

■小学生【女子】　　全国・滋賀県の平均値を上回る　　滋賀県の平均値を上回る

新体カテスト（小学校女子）		女子																	
		1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生		
	対象	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国
H27	握力（kg）	7.50	8.21	8.54	10.00	9.93	10.37	11.51	11.47	11.90	13.36	13.43	13.77	16.12	15.72	16.78	18.63	18.72	19.42
	上体起こし（回）	9.42	10.55	10.99	13.13	12.75	13.30	15.73	14.68	14.97	16.00	15.57	17.44	18.42	17.65	18.82	19.45	19.25	20.10
	長座体前屈（cm）	27.09	27.23	28.06	29.97	29.61	29.98	30.31	31.33	32.56	34.68	33.88	34.13	37.08	36.79	37.59	39.85	39.44	40.32
	反復横跳び（点）	23.93	26.78	26.58	28.89	29.68	30.24	32.40	32.22	33.67	35.03	34.02	37.51	40.99	38.77	40.63	42.02	41.88	43.64
	20mシャトルラン(回)	14.06	13.46	15.03	21.29	19.85	22.70	24.79	25.54	28.95	29.71	28.85	36.98	41.00	37.99	43.95	45.78	45.58	50.44
	50m走（秒）	12.02	12.15	11.86	10.54	11.08	10.95	10.41	10.62	10.40	10.15	10.15	9.93	9.65	9.74	9.45	9.35	9.37	9.16
	立ち幅跳び（cm）	94.43	100.91	106.26	115.16	114.64	118.38	126.78	125.06	128.22	139.71	134.39	137.37	149.17	144.64	147.94	151.98	152.65	157.32
	ソフトボール投げ(m)	4.58	5.20	5.74	6.06	7.08	7.62	9.46	9.23	9.53	11.14	10.90	12.12	13.39	13.17	14.71	15.07	15.18	16.38
	合計点（点）	25.60	28.40	30.04	36.20	36.10	36.98	41.90	42.03	43.52	47.30	46.75	50.00	54.80	53.77	56.25	58.80	59.52	61.37

○中学生

【現状】

- ２年生、３年生女子で全国や滋賀県の平均値を下回る種目が目立っています。
- すべての学年の男子は、上体起こし、20mシャトルラン、立ち幅跳びで全国平均値や滋賀県平均値を上回っています。特に立ち幅跳びはすべての学年で全国平均値を上回っています。
- 長座体前屈、ハンドボール投げでは全国や滋賀県の平均値を下回っている学年が多く、特に長座体前屈ではすべての学年で男女とも滋賀県の平均値を下回っています。

【課題等】

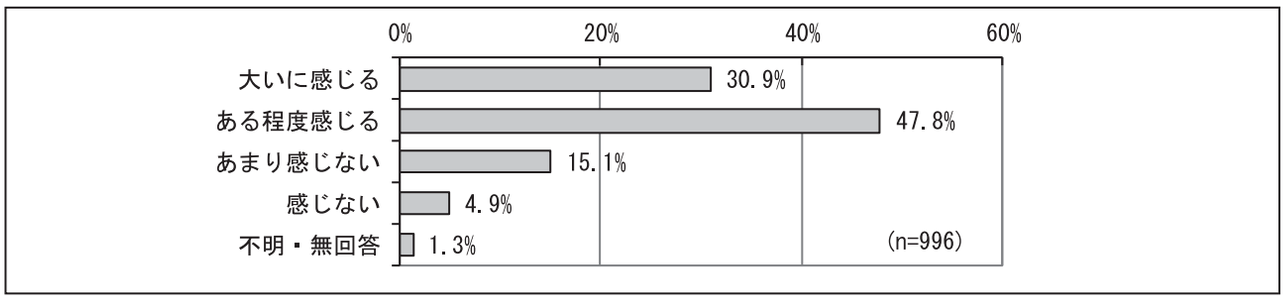
- 全体を通してみると、小学生よりも全国や滋賀県の平均値と大きな差はありませんが、特定の種目（長座体前屈・ハンドボール投げ）で全国や滋賀県の平均値を下回る結果になったことから、バランスよく運動に取り組むことが必要であると言えます。

■中学生　　全国・滋賀県の平均値を上回る　　滋賀県の平均値を上回る

新体カテスト（中学校）		男子									女子								
		1年生			2年生			3年生			1年生			2年生			3年生		
	対象	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国	市平均	H27県	H26全国
H27	握力（kg）	24.29	23.53	24.58	28.31	28.64	30.15	33.68	34.04	35.38	21.98	21.62	21.97	23.87	23.56	24.37	25.36	25.06	25.53
	上体起こし（回）	24.53	24.35	24.52	27.85	27.78	28.44	30.00	29.76	30.50	21.30	21.02	21.05	23.01	23.20	23.74	23.63	24.43	24.83
	長座体前屈（cm）	38.06	40.60	40.31	42.86	43.81	43.97	46.81	47.57	47.05	40.45	43.04	43.68	44.72	45.25	46.58	45.54	47.45	48.41
	反復横跳び（点）	49.06	48.67	49.47	52.18	52.31	53.06	54.87	54.65	56.09	45.04	44.89	45.46	46.12	46.30	47.05	46.73	47.17	48.03
	20mシャトルラン(回)	71.51	69.62	73.13	88.22	85.83	90.80	95.03	93.51	97.69	50.59	51.62	53.40	60.92	57.32	61.89	59.84	58.82	60.66
	持久走（秒）	425.72	406.22	416.10	391.11	395.42	370.82	377.54	380.98	365.08	303.80	302.08	298.59	285.79	292.41	278.41	290.57	295.23	284.04
	50m走（秒）	8.57	8.61	8.42	8.05	8.01	7.78	7.62	7.62	7.43	9.10	9.13	8.98	8.85	8.90	8.66	8.87	8.84	8.64
	立ち幅跳び（cm）	181.55	178.66	181.04	198.45	196.77	197.71	212.83	210.31	212.37	162.65	164.05	165.03	169.33	168.83	170.71	170.85	171.05	174.79
	ハンドボール投げ(m)	17.57	17.46	18.68	20.02	20.59	21.49	22.46	23.36	24.15	11.10	11.09	11.86	11.85	12.37	13.54	12.94	13.42	14.45
	合計点（点）	34.43	35.94	34.49	42.63	42.63	43.00	49.38	49.49	49.88	43.91	43.98	44.41	49.24	48.85	49.62	51.25	51.69	51.88

（４）市民アンケート

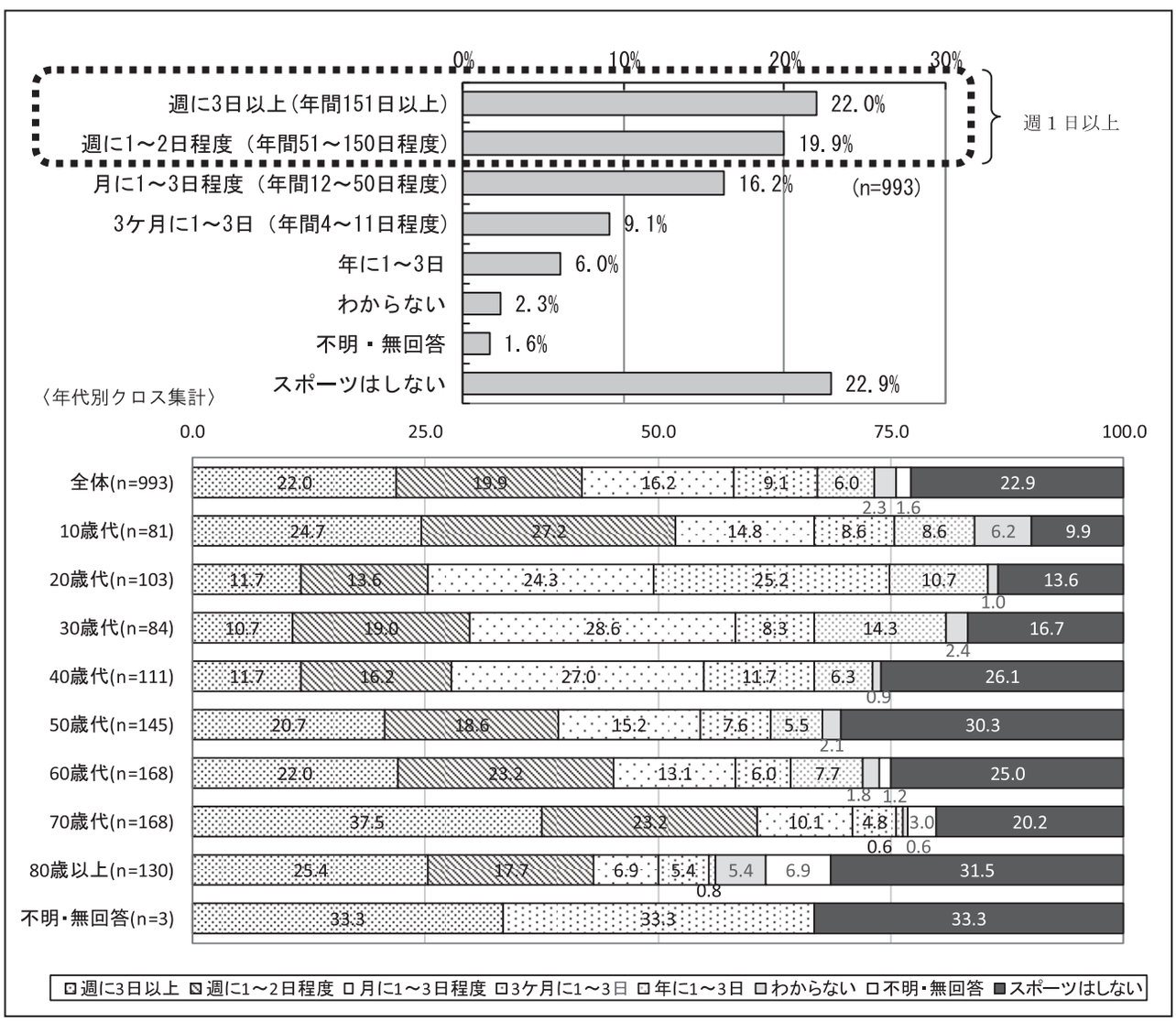
①運動不足を感じていますか



【課題等】

・運動不足を感じている人は約８割となっており、今後、運動不足を感じる人を減らしていくことが必要です。

②1 年間にどれくらい運動・スポーツをしていますか



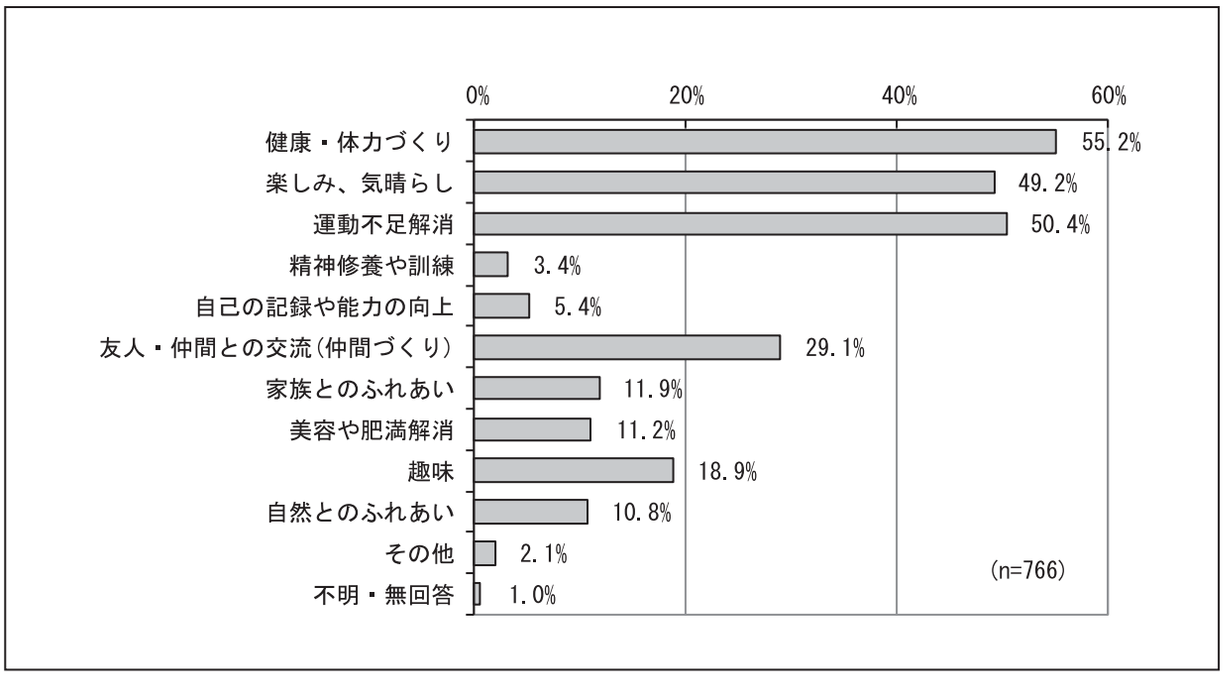
【現状】

・運動・スポーツ実施率（週１回以上）は 41.9%となっており、ウォーキングや体操の実施者が多くなっています。年齢別では、年齢の高い層ほど実施率が高くなっています。

【課題等】

・比較的若い世代では十分な運動・スポーツに取り組めていない人が多い傾向がみられます。

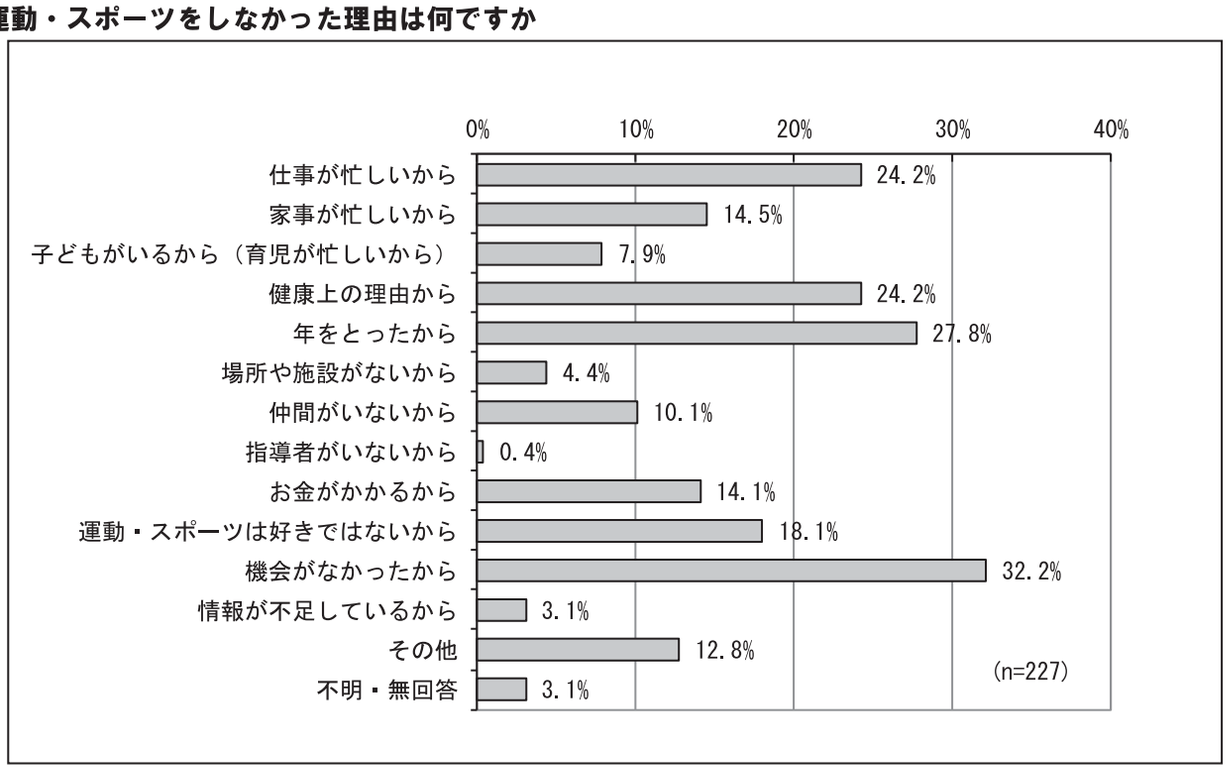
③運動・スポーツをする理由は何ですか



【現状】

・運動・スポーツをする理由は「健康・体力づくり」「運動不足解消」「楽しみ、気晴らし」が5割程度で、その他、「友人や仲間との交流」や「趣味」等様々な理由が挙げられています。

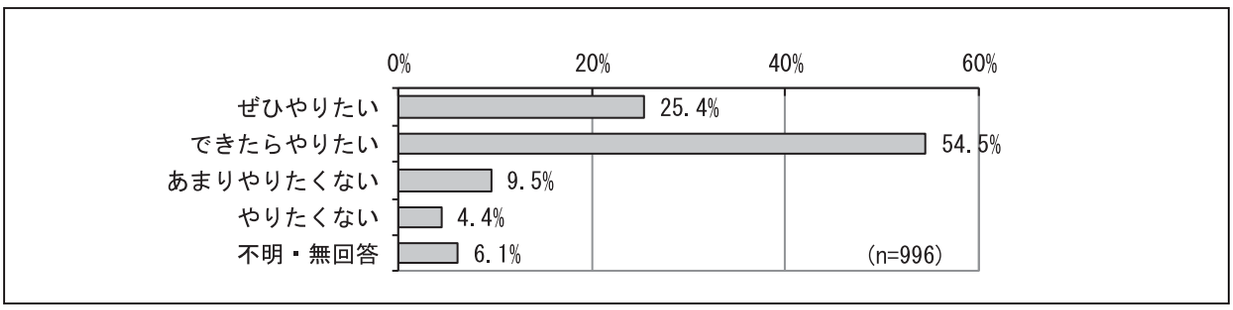
④運動・スポーツをしなかった理由は何ですか



【現状】

・運動やスポーツをしなかった理由は「機会がない」「年をとった」が３割程度で、今より体を動かせるようになるには、体力や好みに合ったスポーツ、人からの誘い、身近なスポーツ施設やスペースを求める意見が多くなっています。

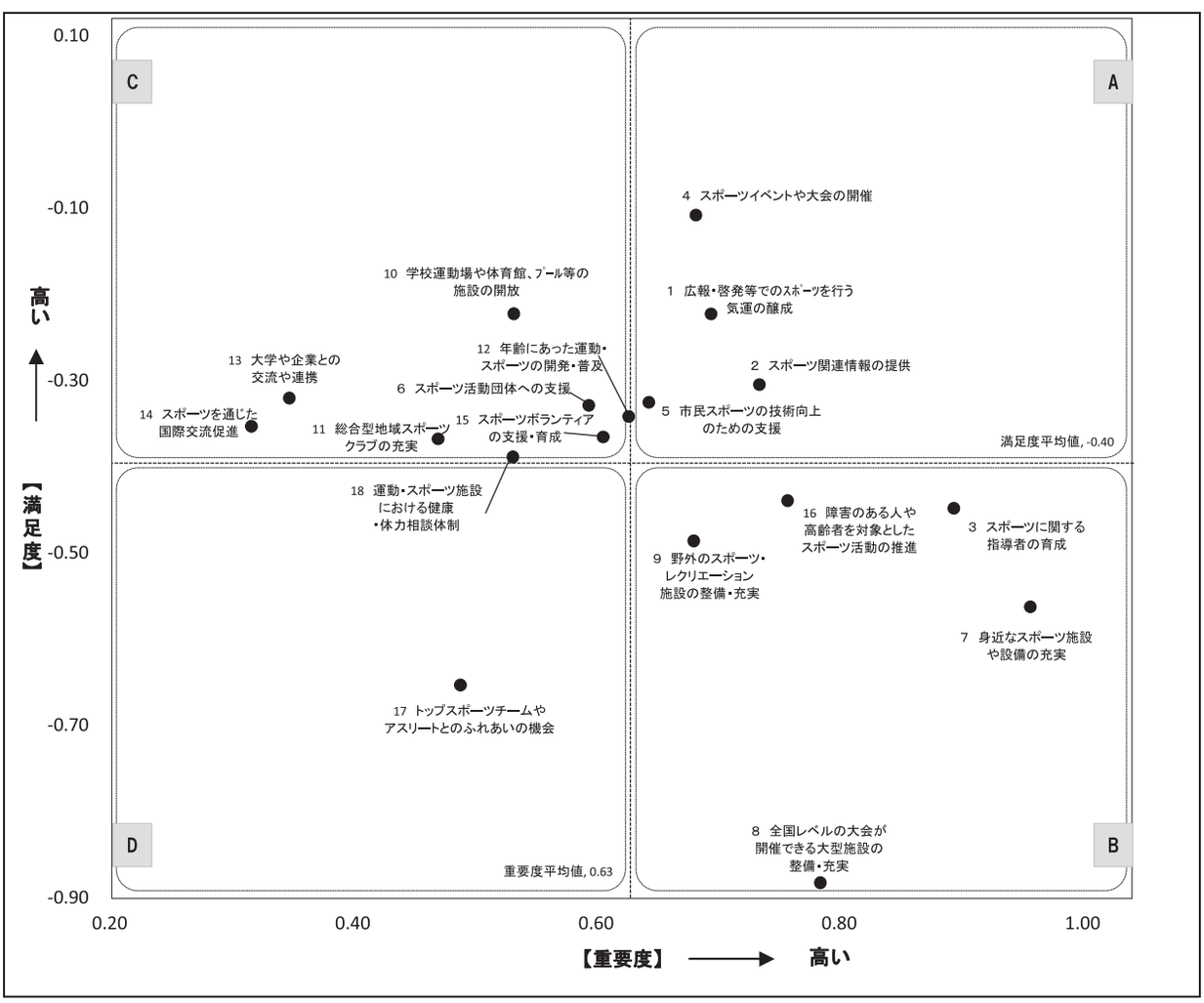
⑤今後、運動・スポーツをしたいですか



【現状】

・今後、運動・スポーツをやりたいと思っている人は約８割となっています。

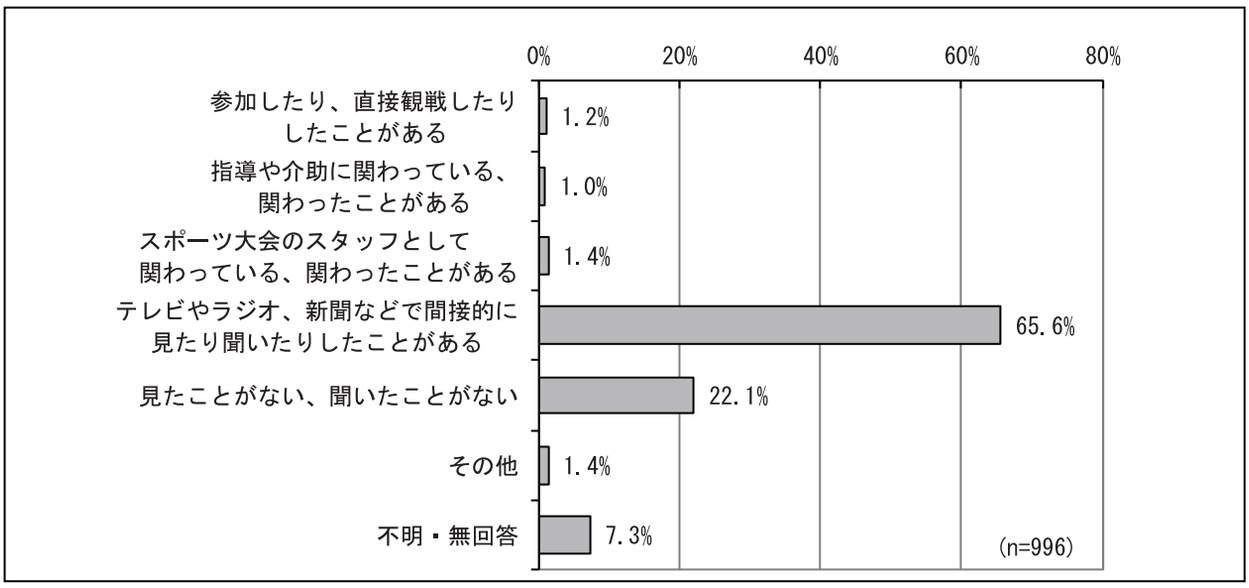
⑥市の運動・スポーツの取組について、どのくらい満足していますか、またどのくらい重要だと思いますか



【課題等】

・市のスポーツ施策について、市民が重要と感じていながら、満足度が低いと感じているものは、身近なスポーツ施設や設備の充実、スポーツに関する指導者の育成等となっています。

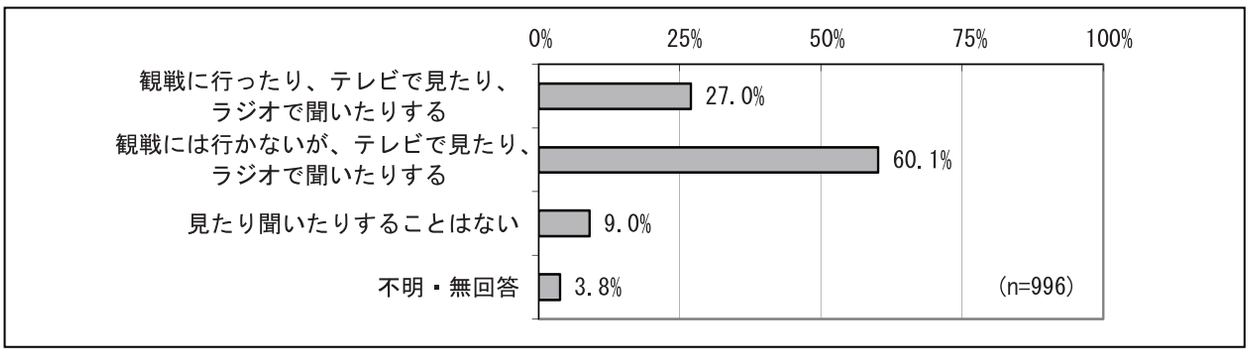
⑦障害者スポーツに関わったことがありますか



【現状】

・障害者スポーツについて、「見たことがない、聞いたことがない」人が２割を超えています。

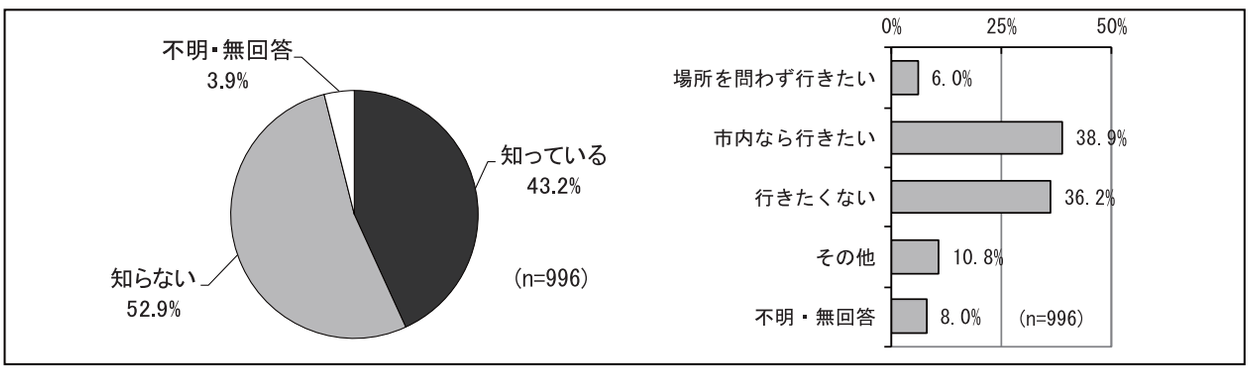
⑧スポーツを観戦したり、テレビで見たり、ラジオで聞いたりしますか



【現状】

・実際に観戦に行っている人は３割弱となっています。

⑨平成 36 年開催予定の国体・全スポを知っていますか、また観戦したいですか



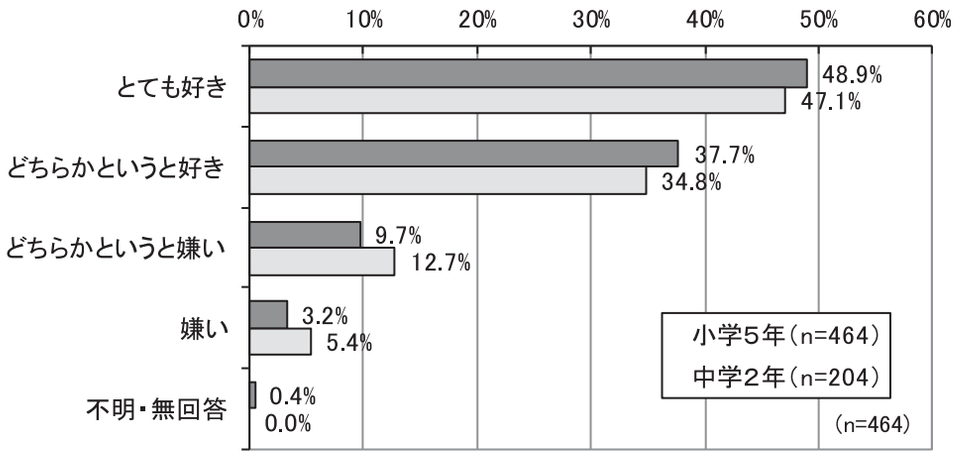
【現状】

・平成 36 年（2024 年）開催予定の国体・全スポの認知度は半数近く、また観戦意向を持つ人も４割を超えています。

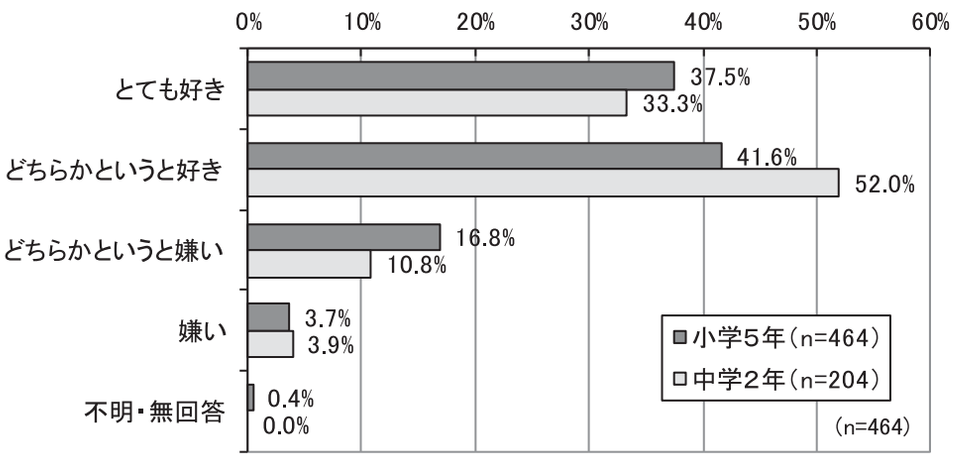
（５）小学生・中学生アンケート

①運動やスポーツをすることが好きですか・みることは好きですか

（することが好きですか）



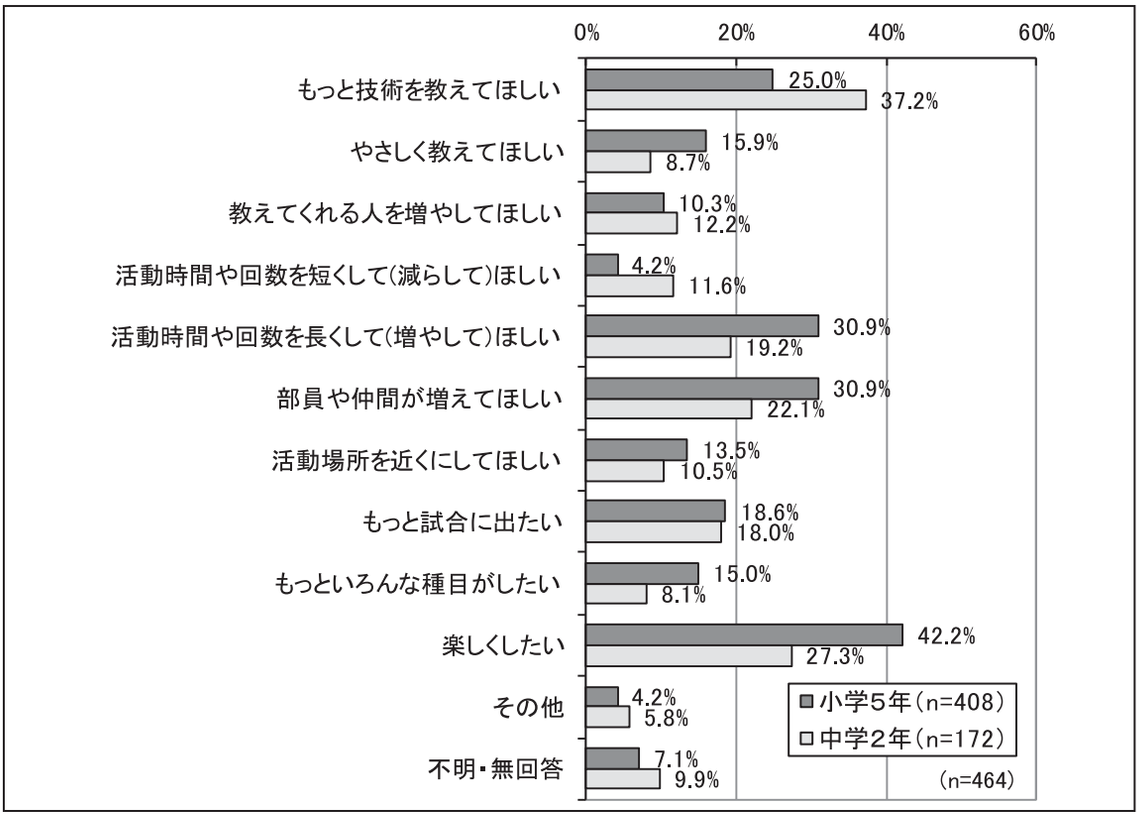
（みることは好きですか）



【現状】

・運動やスポーツをすること、見ることが好きな子どもは８～９割を占めていますが、嫌いな子どもも１～２割程度います。

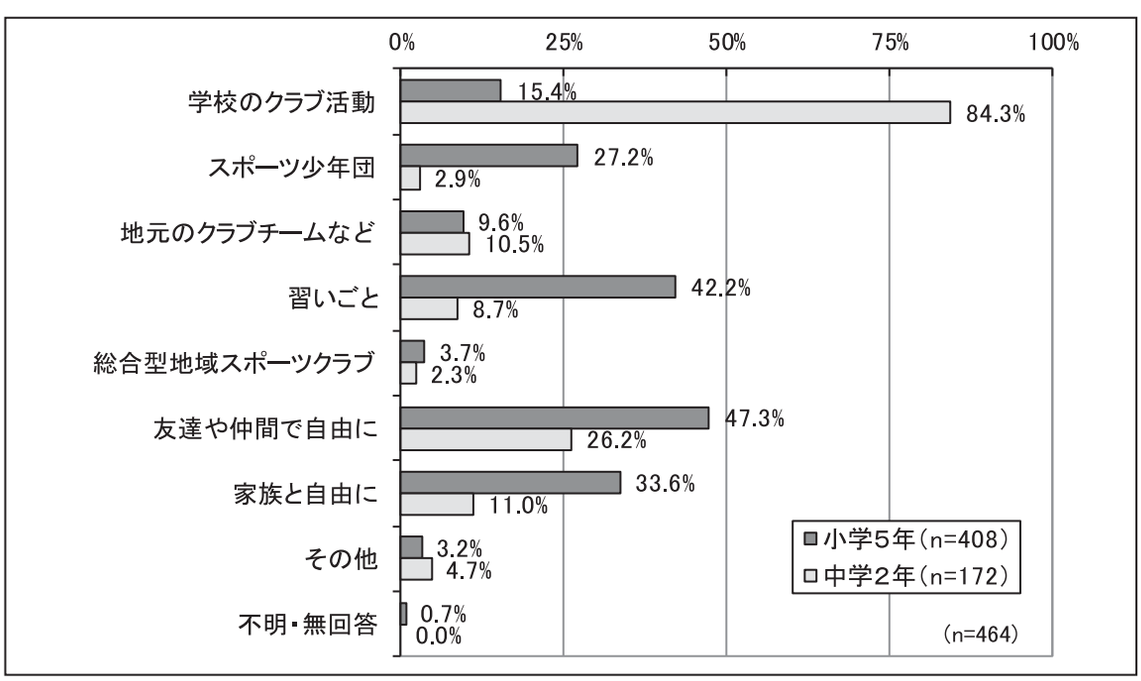
②先生・コーチにお願いしたいことは何ですか



【現状】

・小学生は運動やスポーツを楽しみたいと考えている傾向がみられ、中学生は技術的な面を身に付けたいという意向もみられます。

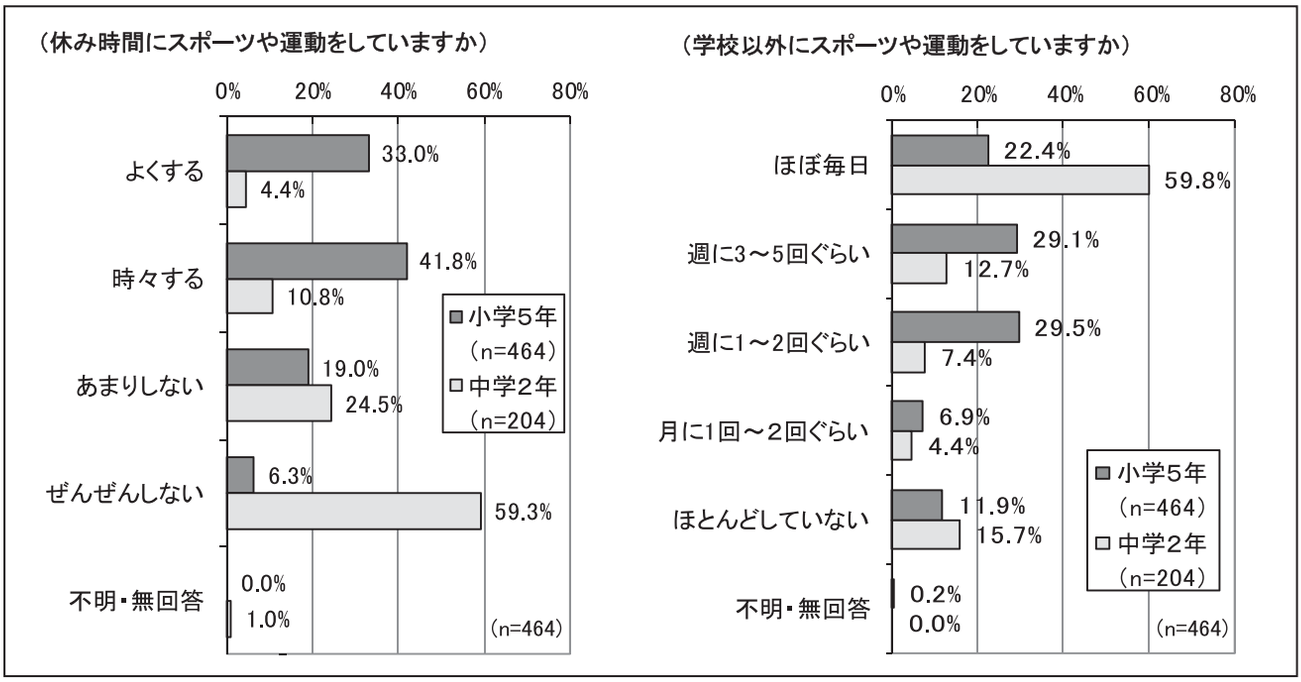
③どのようにスポーツや運動をしていますか



【現状】

・小学生は学校の休み時間（中休み・昼休み）にスポーツや運動をする子どもが７割を超えています。中学生は部活動での運動・スポーツが８割を超え、運動・スポーツに重要な役割を果たしています。

④休み時間にスポーツや運動をしていますか・学校以外にスポーツや運動をしていますか



【現状】

・休み時間に運動を全くしない子どもは、小学生で 1 割弱、中学生で約 6 割となっています。一方休み時間や授業以外に、ほぼ毎日スポーツをする子どもは、小学生が約 2 割、中学生が約 6 割となっており、学年が上がるにつれ運動の有無や運動の方法の二極化が進んでいます。

（6）スポーツ団体等の状況（団体アンケート、ヒアリング等）

①体育協会等関係団体（競技団体、学区体育振興会、スポーツ少年団）

【現状】

・競技団体では、高齢者や障害者の活動に配慮している団体多く、スポーツ少年団においても障害者の活動に配慮している団体もみられます。

・競技団体、スポーツ少年団で、他団体との自主的な交流事業やイベントに取り組んでいる団体も多くみられます。

・競技団体、スポーツ少年団では、国体について前向きに取り組む意向を示す団体が多く、具体的には、競技への選手の派遣、開催前や開催期間中の情報発信等が挙げられています。

【課題等】

・活動者やスポーツイベント等への参加者不足について、全ての団体で課題として挙げられています。その他には、指導者等の後継者不足や高齢化が挙げられています。

・競技団体では、大会や練習に使う施設に関する問題点を挙げる団体も目立っています。

②学校・大学（小学校、中学校、高等学校、大学）

【現状】

・小学校では、子どもの体力の低下への対策として、10 分間運動等による運動量の確保、マラソン大会やなわとび大会に向けた練習等に取り組んでいる他、外遊びの奨励、遊びの場や遊具の工夫等に取り組んでいる学校があります。

・高校・大学では地域と連携したスポーツ活動として、小中学校と連携した活動を行っている学校がみられます。

【課題等】

・小中学校では、スポーツに積極的に取り組む子どもと、スポーツをしない子の「二極化」や子どもの運動機会が少ない点について指摘があります。また、小中学校のクラブ活動・部活動において、専門的指導ができる人材不足を挙げる学校が多くなっています。

・さらに、小中学校からは、学校での運動・スポーツの場所（グラウンドや体育館等）の面積不足、設備、器具等の問題を挙げる学校が多くあります。

・高校や大学からも、生徒や学生の基礎体力不足等の指摘もみられることから、幼少期からの運動・スポーツ対策が重要になってくると考えられます。

・国体開催について、前向きな姿勢を示す学校・大学が多くなっています。具体的には、競技力の向上や競技への選手の派遣の他、運営補助等を挙げています。

③総合型地域スポーツクラブ※1

【現状】

・市内の学校等をはじめ、市外、県外のチームと交流大会を行ったり、学区で活動する団体等と連携した活動を行ったりしている団体もみられます。

【課題等】

・活動場所の不足、運営スタッフの不足を課題として挙げられています。

・今後の展開として、新たな活動場所の発掘や地域との連携の模索や、参加者に飽きさせない企画の検討が挙げられています。

・国体開催について、前向きな姿勢が示されており、競技への選手の派遣や運営補助、応援サポーターとしての活動を通じた国体参画を考えている団体がみられます。

④スポーツ推進委員

【現状】

・ニュースポーツの普及のため、積極的な活動を行っている地域が目立つ他、グラウンドゴルフについても各地域で活発な取組が行われている様子がうかがえます。

・市近隣学区との交流大会や練習、小中学校や高校、他団体と連携したスポーツ大会の運営等に取り組む地域もみられます。その他、優秀な成績をあげた小中学生に対する表彰を行っている地域があります。

【課題等】

・参加者不足や参加メンバーの固定化、参加者の競技レベルに差があり、交流が難しい、といった課題が挙げられています。

・運営側について、担い手の高齢化や人材不足、活動場所の不足、ニーズの多様化に指導者が対応できていない、スポーツ推進委員活動のＰＲ不足といった課題が挙げられています。

・地域で取り組んでいるスポーツ活動について、いつ、どこで、どのような活動を行っているのかについての情報が地域に共有されていない点について指摘されています。

・今後、人材育成や出前講座の充実、他学区と連携したスポーツ活動に意欲を見せる委員がみられます。

※1…身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1) 子どもから高齢者まで（多世代）、(2) 様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、(3) 初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ（文部科学省 HP より）

・他団体との連携として、大学や障害者団体（療養センター、養護学校、特別支援学級等）、スポーツ少年団、高齢者団体、競技団体等との連携を望む地域がみられます。

⑤民間スポーツ団体

【課題等】

・利用者の減少や確保、指導者（講師等）の高齢化や人材育成についての課題を挙げる団体がみられます。また、活動施設の確保についても課題として挙げる団体が目立ちます。

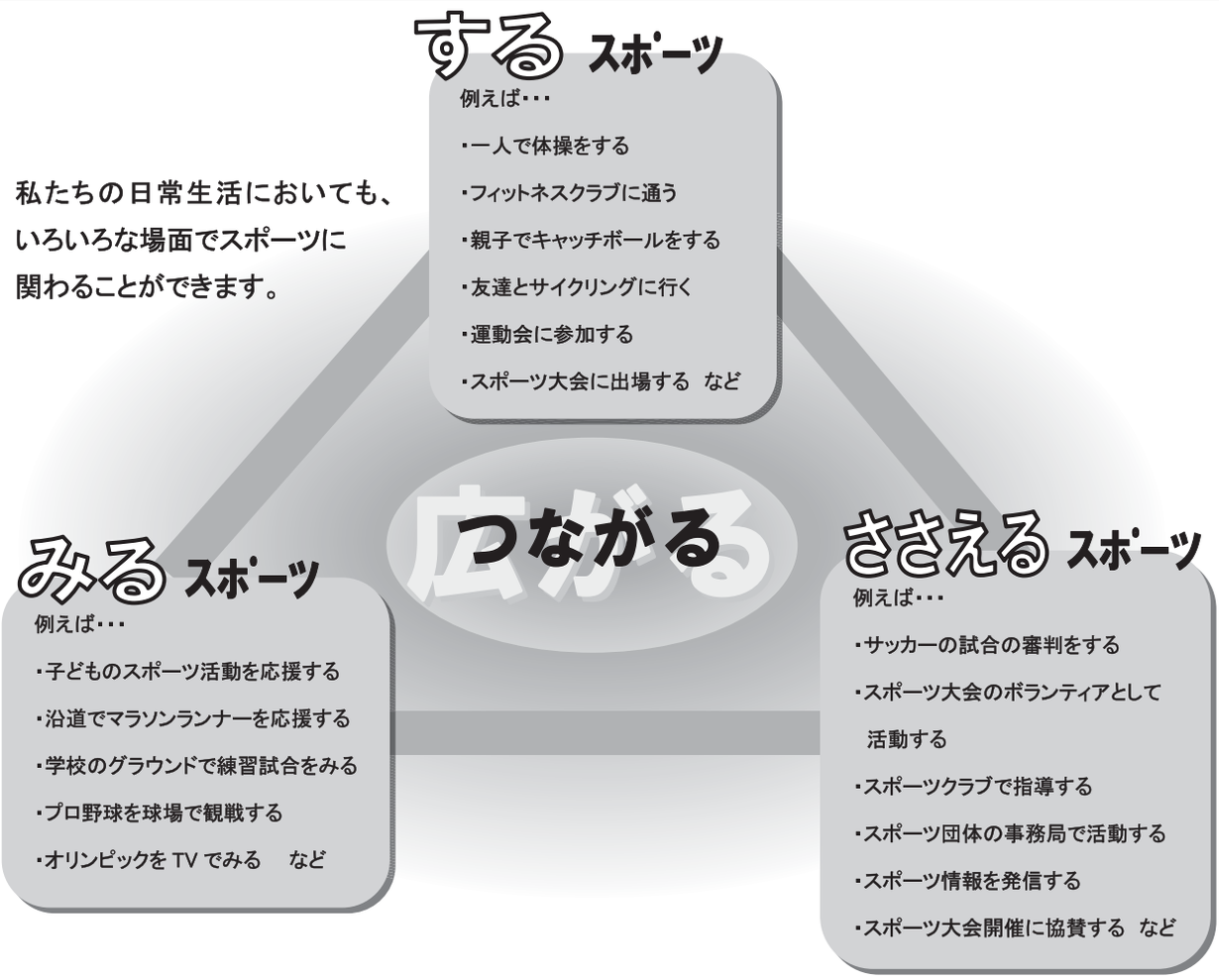
・行政との連携について、子どもや高齢者を対象にした講座の提供や自治会、学校、企業と連携したスポーツ活動、指導者派遣等を挙げる団体がみられます。

Ⅱ　めざす将来像

将来像

「つながる　広がる　スポーツで彦根はもっと元気になる」

～笑顔あふれるひとづくり，まちづくり～



スポーツを通じて、心と体を健康に保ち、人生を豊かで充実したものにすることは、すべての市民にとってかけがえのないものです。

また、スポーツは人々の笑顔を増やし、交流を深めるだけでなく、スポーツを知ることから広がる学びや地域の活性化など、大きな役割を果たすことが期待されています。

近年、スポーツの担う役割は「する」「みる」「ささえる」と多様化してきており、年齢、性別、健康状態や障害の有無等に関わらず、すべての市民が様々な形でスポーツに積極的に参画していくことを目指します。

市民一人ひとりが、身近にスポーツを楽しむことができ、生涯を通じて健康で心豊かな生活が送れるよう、地域、各種スポーツ団体や関係機関、行政が連携し、スポーツの力で人と人とがつながり、人・地域の交流が広がることで、元気なまち、笑顔があふれるまちの実現を目指します。

Ⅲ　基本方針・施策

計画のめざす将来像の実現に向け、５つの基本方針を定め、方針に沿った施策目標や指標を設定し、スポーツの推進を図っていきます。

基本方針	施策
1　子どもの運動・スポーツの推進	(1)幼児期・児童期の運動(遊び)の推進 (2)学校体育等の充実 (3)運動クラブ・部活動におけるスポーツの充実
2　ライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	(1)子育て・働き盛り世代のスポーツの推進 (2)高齢者スポーツの推進 (3)障害者スポーツの推進 (4)競技スポーツの推進 (5)誰もが楽しめるスポーツの機会創出
3　地域が主体となった市民スポーツの推進	(1)地域のスポーツ団体の育成・支援 (2)スポーツ少年団活動の充実 (3)大学、企業等との連携によるスポーツの推進 (4)スポーツ指導者、ボランティア等スポーツに関わる人材育成
4　身近なスポーツ環境の充実	(1)スポーツ観戦機会の拡充 (2)身近なスポーツ関連施設の充実 (3)スポーツ情報の共有推進
5　スポーツを活かしたまちづくりの推進	(1)国体・全国障害者スポーツ大会の開催準備 (2)新市民体育センターを拠点としたまちづくりの推進 (3)スポーツイベント・大会を通じた地域の活性化 (4)スポーツツーリズムの推進

1　子どもの運動・スポーツの推進

◆現状・課題

・乳幼児健診等の場で、親子のふれあい遊びの紹介をしています。

・幼児については、近年、多様な動きの獲得の遅れや運動能力の低下が指摘されています。また、すぐに「疲れた」と言ったり、失敗を恐れ初めから「できない」と決めつけたりして、自ら運動に取り組みづらい子どもが増えています。

・幼児期において、多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること、楽しく体を動かす機会を確保すること、発達の特性に応じた遊びを提供すること等を考慮し、日常的に継続した取組が必要です。

・小中学校の新体力テスト等の結果より、子どもの運動能力の低下がみられ、子どもの時期から生涯を健康に過ごす基本となる体力づくりを進めることが必要となっています。

・市や学校では新体力テストの結果を分析し、子どもの運動能力向上につながる運動遊びや授業時における運動量の確保のための予備運動の奨励に取り組んでいます。

・彦根市内の中学校の運動部活動への加入率は 72%で多くの生徒が運動・スポーツを実施している。

・学校と体育協会とが連携し、様々な世代がスポーツを通じた交流に取り組んでおり、今後とも、縦・横の連携を強め、運動クラブ、部活動の活性化を図ることが必要です。

・市内には 19 団のスポーツ少年団が組織されており、地域で子どもたちがスポーツに親しむ機会として大きな役割を果たしていますが、活動者が増えない、指導者の後継者がいない等の課題が挙げられています。

◆施策

（1）幼児期・児童期の運動（遊び）の推進

①乳幼児期の子どもへの運動の機会提供（幼児課、健康推進課、市民体育センター、子ども・若者課）

・幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指す幼児期運動指針※1 を活用した遊びの機会の提供を図ります。

・乳幼児健診等の場で、親子のふれあい遊びの紹介をする他、市民体育センターにおいて体操教室を開催する等、乳幼児期の子どもを対象に遊びを通じた運動の機会の提供を図ります。

・子どもセンターにおける親子のふれあい遊びの場や、保育園の園庭開放等、子どもの遊びの場の提供に努めます。

②幼児・児童が参加するスポーツイベントの開催

（保健体育課、市民体育センター、子ども・若者課、幼児課）

・親子で参加できるスポーツイベントを開催し、子どもだけでなく、子育て世代が気軽にスポーツに参加できる機会を提供します。

③荒神山での野外活動の推進（荒神山自然の家）

・荒神山の豊かな自然を活用し、キャンプやウォークラリー、宇曽川でのリバーボート等、野外で

※1…幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指した幼児期の運動への在り方についての指針

の体験活動を通じ、心身ともに健康な子どもの育成につなげます。

（2）学校体育等の充実

①新体力テストの分析・活用（保健体育課）

・新体力テストの結果を踏まえ、子どもの体力の実態を把握するとともに、不足する運動能力を補うため、様々な運動要素を含む運動・遊びの検討を行います。

・児童の運動・遊びの時間の確保や、運動・遊びの楽しさを味わえるよう、「健やかタイム※1」によって、運動・遊びのプログラムを提供します。

②授業や休み時間等における運動・スポーツ活動の充実（保健体育課、生涯学習課）

・子どもの発育・発達段階の特性に応じた体育授業の工夫や休み時間の外遊びの奨励、学校ごとに特色のある運動・スポーツメニューの提供など、子どもの運動・スポーツ活動の充実を図ります。また、放課後児童クラブの遊びの時間に、外遊びを奨励します。

③指導者の資質向上（保健体育課）

・児童・生徒の実態に応じた体育実技研修会の開催や県外研修、デジタル版「彦根の体育」の有効活用等、教職員の資質向上を図ります。

・スポーツ事故やスポーツ障害※2 に関する情報の共有等、子どものスポーツ事故やスポーツ障害の防止を図ります。

（3）運動クラブ・部活動におけるスポーツの充実

①運動クラブ・部活動の充実（保健体育課）

・彦根市体育協会と連携し、小学校の運動クラブ活動や中学校の部活動と高校、大学、企業等との交流を行い、競技力の向上や指導者育成等を図ります。

・中学校の運動部活動の充実を図るため、地域に住むスポーツの技能や専門的知識を持つ外部指導者を活用する「スポーツエキスパート活用事業※3」に取り組みます。

・中学校の運動部活動におけるスポーツ障害や事故の未然防止を図るとともに、適切な管理運営を行うため、各種研修会への参加の促進等に努めます。

◆指標

項目	現状値（平成27年度）	中間目標値（平成32年度）
○新体力テスト合計点（小５）	男子 54.2 点 女子 54.8 点 〈参考〉 国：男子 54.98 点、女子 56.25 点(H28) 県：男子 52.91 点、女子 53.77 点	男子　56 点 女子　57 点 〈参考〉 県：全国平均を上回る(H29 目標)
○運動・スポーツの実施率 （週３回以上：小５）	51.5%　※平成 28 年度	60%
○外部指導者の活動日数	330 日	600 日

※1…「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」結果から，平日に不足している運動時間を確保するために始めた取組。県内の小学校ごとに，地域や学校の実態に応じ，学校の創意により作成された運動（遊び）プログラムを長休みや放課後等に計画的，継続的に実施している。

※2…スポーツを行うことにより発生する身体の障害で，同じ動作の反復により，一定の部位に負担がかかることにより発生する障害。

※3…生徒の競技力および教員の指導力向上を目的として、地域に住むスポーツの技能や専門的知識を持つエキスパートの活用を推進する事業。

2　ライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

◆現状・課題

・市民アンケートの結果より、働き盛り世代の運動実施率が低くなっていることが明らかになりました。一方、運動・スポーツへの関心や実施の意欲も高いことから、これらの世代が気軽に運動・スポーツに触れることができる機会を提供していくことが重要です。

・高齢化が進み、医療や介護施策の充実が求められる一方、生活習慣病の予防や症状の改善の点からも運動やスポーツの重要性が認識されてきています。今後、高齢者の健康の保持・増進につながる運動・スポーツの機会の提供を行うことが必要です。

・彦根市では、障害者スポーツの県大会、全国大会等への参加支援や、障害のある人が身近にスポーツに親しめる機会を提供してきていますが、市民アンケートでは、障害者スポーツについて認知していない人がいる結果となっています。今後、障害のある人がスポーツに参加することができる機会の充実や、障害者スポーツの周知、スポーツを通じて障害のある人もない人も交流できる機会づくり等が必要だと考えられます。

・市民や彦根にゆかりのある選手の県大会や全国大会、国際大会への出場は、市民に元気を与え、地域の誇りや団結力を育む等、地域の活性化につながります。

・彦根市では、彦根市体育協会を中心に、各種団体が競技スポーツに取り組んでいますが、今後とも、競技スポーツ団体の活動や団体同士の連携を支援する等、競技スポーツの振興を図っていくことが重要です。

◆施策

（１）子育て・働き盛り世代のスポーツの推進

①子育て層・働き盛り世代への運動の機会提供（保健体育課、市民体育センター）

・男女を問わず、若い世代の市民が運動・スポーツや健康への関心を高め、実践につなげられるよう、エアロビクスやヨガ等、健康づくりにつながる多様な運動やスポーツメニュー等の提供を行います。

・忙しい子育て層、働き盛り世代が運動・スポーツに取り組む機会が増えるよう、スポーツ施設の夜間利用や夜間のスポーツ教室の開催等を進めます。

（２）高齢者スポーツの推進

①高齢者の運動・スポーツの機会提供（市民体育センター、介護福祉課、生涯学習課）

・シニア健康体操教室やレクリエーション活動等、高齢者の運動の機会提供に努めます。

・全国健康福祉祭（ねんりんピック）出場者に対して激励を行います。

②運動・スポーツ活動の奨励・啓発推進（介護福祉課、医療福祉推進課）

・地域の身近な場所での運動・スポーツ活動を奨励するとともに、「ロコモティブシンドローム※1（運動器症候群）」の予防・改善に向けた啓発活動を展開します。

※1…骨，筋肉，関節等の運動器が衰えることにより，要介護になる危険性の高い状態。

③コツコツ続ける金亀（根気）体操の普及（医療福祉推進課）

・こり固まった筋肉をほぐすストレッチや筋力低下を予防する筋力運動を中心に、心臓や肺の機能を向上させる有酸素運動も取り入れた「コツコツ続ける金亀(根気)体操※1」について、介護予防運動指導員等を中心に、地域での普及を図ります。

（３）障害者スポーツの推進

①障害のある人の運動・スポーツの機会提供（障害福祉課、保健体育課）

・障害のある人の体力維持・向上や機能回復を図り、社会参加の意欲を養うとともに、障害のある人相互の親睦と協調を促進するため、障害者スポーツ大会を開催します。また、障害の有無に関わらず幅広く市民に参加をよびかけます。

②スポーツ大会への参加促進（障害福祉課）

・障害者競技スポーツの普及および選手育成を進めるとともに、全国障害者スポーツ大会・県障害者スポーツ大会・県スペシャルスポーツカーニバル等への参加の促進や、スペシャルオリンピックス※2の活動周知を行います。

・全国大会出場者への激励等、スポーツ活動の支援を行います。

（４）競技スポーツの推進

①子どもの競技力向上（保健体育課）

・より多くの競技者が活躍できるよう、子どもを対象としたスポーツ教室の開催等の選手育成や環境整備に努めます。

②競技団体の活動支援（保健体育課）

・彦根市体育協会をはじめ、地域において活動するスポーツ団体の活動を支援し、切れ目のない選手育成および競技レベルの維持・向上を図ります。

③スポーツ顕彰の実施（保健体育課）

・競技スポーツ大会において優秀な成績をあげたスポーツ選手や団体、指導者を対象に「ひこねスポーツ賞」「彦根市体育協会表彰」等により、スポーツ活動の支援を行います。

④スポーツ活動を支援する仕組みの確立（保健体育課）

・スポーツ大会で活躍できるスポーツ選手や指導者の育成等、トップレベルのスポーツ人材の育成や活動を支援するため、募金や寄付募集等について検討します。

※1…「元気で長生き！」をめざし、足腰の力を保ち、向上させるために彦根市でつくられたご当地体操。(1)ストレッチ、(2)筋トレ、(3)バランス運動、(4)有酸素運動の４つの運動で構成される30分程度の体操。

※2…知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織（スペシャルオリンピックス日本HP）

⑤トップアスリートとのふれあいの機会の創出（保健体育課）

・トップアスリートを地域に招聘し、スポーツ活動の指導や激励会等を通じて、市民とトップアスリートがふれあえる機会づくりに努めます。

（５）誰もが楽しめるスポーツの機会創出

①多世代が参加できるスポーツイベントの開催（保健体育課）

・「元気フェスタ」や「彦根シティマラソン」等、様々な世代が、自らの体力等に応じた運動やスポーツを楽しむことができるスポーツイベントを継続的に開催します。

②障害のある人もない人も参加できるスポーツイベントの開催（保健体育課、障害福祉課）

・障害者スポーツ大会への障害のない人の参加や身近なスポーツ大会への障害のある人の参加等、誰もが参加できるスポーツ大会の開催に努め、スポーツを通じた共生社会の実現を図ります。

③地域での身近なスポーツ大会の開催（保健体育課）

・各学区体育振興会等による市民運動会や各競技のスポーツ大会等の開催を支援し、身近な場所でのスポーツの機会を増やします。

④身近に楽しむ軽スポーツの促進（保健体育課）

・幅広い年齢層の市民が楽しむことができる身近なスポーツとして、ウォーキングやランニング、サイクリング等の促進を図ります。

⑤ニュースポーツの普及（保健体育課、障害福祉課）

・誰もが参加できるスポーツとして、ニュースポーツの普及をめざし、備品の貸し出し等活動の支援を行います。

◆指標

項目	現状値（平成27年度）	中間目標値（平成32年度）
○運動・スポーツの実施率（週１回以上：成人）	41.9%　※平成 28 年度	60%
	〈参考〉 国：40.4% 県：36.0%(H28)	〈参考〉 国：65%程度(H33 目標) 県：国の実施率を上回る(H29 目標)
○65 歳以上人口に対する要介護等認定者数の割合	17%	19%(増加率を 2%以内に抑える)
		〈参考〉 総合計画：指標 19%
○障害者スポーツ大会等参加者数	395 人	450 人
○トップアスリートとの交流機会の回数	2 回	4回
○元気フェスタ参加者数	2,898 人	3,000 人
		〈参考〉 総合計画：指標 3,000 人

3　地域が主体となった市民スポーツの推進

◆現状・課題

・彦根市内では、学区体育振興会、スポーツ推進委員協議会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等、身近な地域でスポーツに取り組む団体が数多く活動しており、市民のスポーツ活動や市民同士の交流が図られています。

・活動団体からは、指導者・運営者の人材不足や高齢化、参加者不足やスポーツメニューの固定化等の問題点が挙げられており、各スポーツ団体の活動を支援する等、身近なところでスポーツに関わることができる環境を整えていくことが必要です。

・彦根市内には３つの大学があり、大学のグラウンド等の施設開放を行っているほか、大学の運動部が彦根市体育協会傘下のスポーツ団体に加入する等、地域に密着したスポーツの取組がみられます。

・市民が民間のスポーツ施設やスポーツ講座を利用する場合に、費用の一部助成を行う等、企業と連携したスポーツ活動の支援も行っています。今後とも、大学や企業との連携を強め、運動・スポーツ環境の充実につなげていくことが重要です。

・市内で活動する各スポーツ団体から、スポーツ活動に携わる人材不足が問題点として挙げられており、現在、活動する人材の支援や新たな指導者育成等に取り組むことが必要です。

・ボランティア活動について、実際に活動したことのある市民は少ない状況ですが、活動意思をもつ市民は多く、今後の大規模スポーツイベントの運営を視野に入れ、スポーツボランティアの育成に取り組むことが必要です。

◆施策

（1）地域のスポーツ団体の育成・支援

①地域のスポーツ団体の活動支援（保健体育課）

・地域で活動する学区体育振興会をはじめ、総合型地域スポーツクラブ等、各スポーツ団体の活動を支援し、市民スポーツの活性化につなげます。

②スポーツ推進委員活動の充実（保健体育課）

・市民のスポーツニーズの把握に努め、スーパーカロム大会等の各種大会や地域で行うスポーツ活動を積極的に支援し、多くの市民が参画するスポーツ活動を推進します。

（2）スポーツ少年団活動の充実

①スポーツ少年団活動の充実（保健体育課）

・地域に根付いて活動するスポーツ少年団に対し、事務局機能や活動に対する助成を行う等、活動の支援を行います。

（３）大学、企業等との連携によるスポーツの推進

①大学、企業等との交流促進（保健体育課、企画課、地域経済振興課）

・大学や企業のクラブチームと市内で活動するスポーツ団体や学校との交流を通じ、競技レベルの向上や指導者育成等につなげます。
・大学や企業と連携し、それぞれが所有するスポーツ施設の有効利用を図る等、市民の運動・スポーツの場の充実につなげます。

②企業等と連携した運動・スポーツの機会の創出（保健体育課、地域経済振興課、医療福祉推進課）
・民間スポーツ施設と連携し、高齢者を対象としたスポーツ講座を開催する等、多様なスポーツメニューの提供や運動・スポーツができる機会の提供を図ります。

③働く世代の運動・スポーツの機会づくり（保健体育課、地域経済振興課、人権政策課）
・仕事が忙しく、運動・スポーツの時間がとれない市民が多いため、企業等と連携し、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を進め、働く世代の運動・スポーツの機会づくりを支援します。

（４）スポーツ指導者、ボランティア等スポーツに関わる人材育成

①スポーツ指導者の確保・育成（保健体育課）
・彦根市体育協会が行う指導者研修に対して助成を行うとともに、地域の人材や意欲の高い指導者について、指導者研修への参加を促進する等、スポーツ指導者の育成を図ります。
・市外のスポーツ団体等との連携を図り、地域で活動するスポーツ団体に外部指導者を活用する等、指導者の確保を図ります。

②スポーツボランティアの育成（保健体育課・障害福祉課）
・市内で開催される大規模スポーツイベント等を中心に、ボランティア活動を志す市民を募り、活動の場を提供するとともに、養成講座の開催等、スポーツボランティアの育成を図ります。

◆指標

項目	現状値（平成27年度）	中間目標値（平成32年度）
○地域スポーツイベント参加者数	18,586 人	22,000 人
○スポーツ少年団加入率（小６）	18.4%	25%
○スポーツイベントでのボランティア活動者数	18 人	50 人

4　身近なスポーツ環境の充実

◆現状・課題

・市民アンケートの結果では、テレビやラジオを含めると９割近くの市民がスポーツを観戦していますが、実際に観戦に行く市民の割合は低くなっており、スポーツの迫力や醍醐味を体感してもらえるよう、スポーツ観戦の機会を増やしていくことが大切です。

・身近なスポーツ関連施設については、市民アンケートでも満足度が低い取組のひとつとなっており、スポーツ団体からも、スポーツ施設に関する問題点が指摘されています。

・「彦根市公共施設等総合管理計画※1」に基づき、スポーツ施設の安心、安全なマネジメントを行っていくため、個別施設計画の策定が必要となっています。

・国体・全スポ開催を控え、県は滋賀県立彦根総合運動場を(仮称)彦根総合運動公園として整備され、市が設置する金亀公園についても再整備を行うことから、両公園が一体的に利用できるよう、市民ニーズを踏まえたスポーツ関連施設の充実が求められています。

・(仮称)彦根総合運動公園整備に伴い市民体育センターを移設することとなり、ＪＲ南彦根駅西側「ひこね燦ぱれす」南側に隣接する場所において、新市民体育センターの整備に向けた取組を進めています。

・彦根市では、市のホームページ等を通じたスポーツ関連情報の発信を行っていますが、市民のスポーツに関するニーズは多様化してきており、ニーズに応じた情報を発信できるよう、関連機関と連携を図り、情報の充実や多様な発信方法について検討していくことが重要です。

◆施策

（1）スポーツ観戦機会の拡充

①競技スポーツ情報の積極的な発信（保健体育課）

・市内で開催されるトップレベルの競技大会や彦根にゆかりのあるスポーツ選手が出場する競技大会等について、積極的な情報発信を行います。

②トップレベルのスポーツの観戦機会の創出（保健体育課）

・県内で活動するプロや実業団のスポーツチームと連携する等、トップレベルのスポーツ大会の開催を誘致し、実際にスポーツの試合等が観戦できる機会の提供に努めます。

・市民の関心が高いスポーツ大会や、地元選手が出場するトップレベルのスポーツ大会等について、パブリックビューイングの開催を進めます。

（2）身近なスポーツ関連施設の充実

①運動・スポーツ施設の整備および維持管理（保健体育課、都市計画課）

・市内の運動・スポーツ関連施設を確保するため、「彦根市公共施設等総合管理計画」の基本的な方針等に則り、個別施設計画を策定するとともに、利用者の安全を確保しつつ、計画的な整備および適切な維持・管理に努めます。

・市民の身近な運動・スポーツ活動をより活発にするため、市立小中学校のグラウンドおよび体育館・武道場の開放を促進し、適切な管理運営を図ります。

・各運動・スポーツ施設の利用状況や維持管理コストのバランスを意識し、必要に応じて指定管理者制度の導入や、先進自治体の成功事例等に倣うなど、効率的かつ効果的な運営に努めます。

※1…公共施設全体を把握し、計画的な更新、統廃合、長寿命化を検討するとともに、財源の確保や効率的、効果的な施設運営等によってコストと便益が最適な状態で保たれた上で、安全・安心な公共施設マネジメントを確立するための骨子となる計画

②新市民体育センターの整備（保健体育課）

・（仮称）彦根総合運動公園が滋賀県により整備されることにより、現在の市民体育センターの移転が必要であることから、新たな施設の整備を進めます。

③都市公園の整備および維持管理（都市計画課）

・彦根城と（仮称）彦根総合運動公園の中間に位置する金亀公園について、老朽化した施設の更新とあわせ、景観への配慮と市民ニーズが両立できる公園として、再整備を図ります。また、その中でウォーキングコースの整備や夜間照明の設置等を進めます。

・都市公園内のスポーツ施設の利便性を向上させるため、荒神山公園の野球場等への照明設備の設置等を進めます。

④運動・スポーツ施設のユニバーサルデザイン化（保健体育課、都市計画課）

・誰もが気軽に運動・スポーツに親しめるよう、運動・スポーツ施設のユニバーサルデザイン化※1を進めます。

（3）スポーツ情報の共有推進

①スポーツ関連情報の積極的な発信（保健体育課、市民体育センター）

・「広報ひこね」や彦根市のホームページ等、様々な情報媒体を通じ、市内のスポーツイベント、スポーツ教室等に関する情報を積極的に発信します。

・彦根市体育協会をはじめとする競技団体や地域で活動するスポーツ団体等が連携し、スポーツイベント等の情報を共有するとともに、市民のスポーツニーズに対応できるよう、わかりやすい情報発信を行います。

②スポーツガイドブック、スポーツマップの作成（保健体育課）

・市内で活動するスポーツ団体の紹介やスポーツ施設の位置や利用方法等が記されたスポーツガイドブックやスポーツマップを作成します。

◆指標

項目	現状値（平成27年度）	中間目標値（平成32年度）
○スポーツの観戦者率	27%　※平成 28 年度	35%
○社会体育施設利用者数	29,229 人 （110,239 人：市体育センター含む）	35,000 人（新市体育センター整備中のため利用不可）
○スポーツに関する市ホームページアクセス数	30,378 回	40,000 回

※1…障害の有無にかかわりなく，すべての人にとって，使いやすいように，予め意図されてつくられている建物や製品，情報，環境等のデザイン。

5　スポーツを活かしたまちづくりの推進

◆現状・課題

- 平成 33 年（2021 年）に開催予定のワールドマスターズゲームズ 2021 関西では、彦根市は陸上競技（10km ロードレース）の会場となっており、開催に向けた準備を進めるとともに、参加者へのおもてなし等による地域振興を図り、またスポーツレガシー※1 の創生につなげていくことが必要です。
- 平成３６年（2024 年）に開催予定の国体・全スポでは、主会場として(仮称)彦根総合運動公園が整備される予定であり、彦根市は国体・全スポ開催において重要な役割を果たすことが求められています。
- 国体・全スポを成功に導くため、滋賀県や競技団体等との連携を図り、ボランティア育成も含め、計画的に開催準備を進めていくことが必要です。
- (仮称)彦根総合運動公園整備に伴い、市民体育センターを移設し、新施設の整備を進めていることから、新市民体育センターを拠点としたまちづくりが望まれます。
- 彦根市では、美しい自然や文化とふれあえる「彦根シティマラソン」や古くから伝わる彦根の代表的ゲームであるカロムに着眼して開発したニュースポーツの「スーパーカロム」、体育の日の趣旨に基づき、すべての市民が気軽にスポーツに親しむことができる「元気フェスタ」等、地域に根付いたスポーツイベントが開催されています。

◆施策

（１）国体・全国障害者スポーツ大会の開催準備

①国体・全国障害者スポーツ大会の開催準備（国体準備室、都市計画課、保健体育課、障害福祉課）

- 平成 36 年（2024 年）に開催予定の国体・全スポの開催に向け、市民への大会周知を図り、関心を高めるとともに、大会への参画促進につなげていきます。
- 国体・全スポ滋賀県開催準備委員会が定める「開催準備総合計画」に合わせて諸準備を進めます。

②子どもの競技力向上【再掲】（保健体育課）

- 国体を見据え、より多くの競技者が活躍できるよう、子どもを対象としたスポーツ教室の開催等、選手育成や環境整備に努めます。

③国体・全国障害者スポーツ大会を契機とするスポーツレガシーの創生

（保健体育課、国体準備室、障害福祉課、都市計画課）

- 国体・全スポの彦根市開催競技について、大会後も引き続き市内で活動が盛んに展開されるよう、活動支援および啓発に努めます。
- 国体・全スポを契機としたスポーツ環境の充実やスポーツへの関心の高まり、また人材の育成や、おもてなしの充実等、将来の彦根市の活性化につなげていけるよう、スポーツレガシーの創生を目指します。

※1…スポーツを通じて生み出されるイベントの開催後も後世に継承されるスポーツ関連の有形および無形の恩恵。有形のものは、スポーツ施設やプログラム、無形のものはスポーツの評判やスポーツによる意識改革等。

（２）新市民体育センターを拠点としたまちづくりの推進

①　新市民体育センターの整備推進および活用の検討（保健体育課）

・誰もが気軽に訪れ、交流が図れる“スポーツを通じた健康複合施設”としてJR南彦根駅西側「ひこね燦ぱれす」南側に隣接する場所に整備することから、その立地を活かした施設にするとともに、地域や各種団体等と連携しながら、まちのにぎわいの創出等を目指します。

（３）スポーツイベント・大会を通じた地域の活性化

①彦根市の特色を活かしたスポーツイベントの開催（保健体育課）

・「彦根シティマラソン」や彦根市で開発され、大会が定着しつつある「スーパーカロム大会」等、特色あるスポーツイベントの継続を図ります。

・市内の様々なスポーツ団体と連携し、市内各地で多様なスポーツを体験できる「元気フェスタ」も継続的に開催するとともに、スポーツメニューの充実を図ります。

②スポーツイベント・大会での魅力発信および交流促進

（保健体育課、国体準備室、観光企画課、地域経済振興課）

・より多くの来訪者等に彦根市の魅力にふれてもらえるよう、ワールドマスターズゲームズ2021関西や国体・全スポ、また毎年開催されるスポーツイベント等において、彦根市の歴史・文化、食や物産等に関する情報や観光メニュー等を積極的に発信するとともに、交流の促進を図ります。

（４）スポーツツーリズムの推進

①地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進（観光企画課、保健体育課）

・自然や歴史文化遺産等を活かしたウォーキングコースや周遊サイクリングコースを市民のみならず、来訪者等にも親しんでもらえるよう情報発信に努めます。

・彦根市および近隣市町への観光にレンタサイクルの活用を進めるとともに、滋賀県や民間団体等と連携し、琵琶湖一周サイクリングの「ビワイチ※1」を支援する等、自転車を利用した観光を推進します。

◆指標

項目	現状値（平成27年度）	中間目標値（平成32年度）
○スーパーカロム大会参加者数	208人	250人
○レンタサイクル利用者数	2,732人	3,000人

※1…滋賀県の観光資源を活かした体験・体感型のツアーで，サイクリングやウォーキング等により琵琶湖を一周し，県内を周遊するツアーの愛称。

Ⅳ　計画の推進

1　計画の推進体制

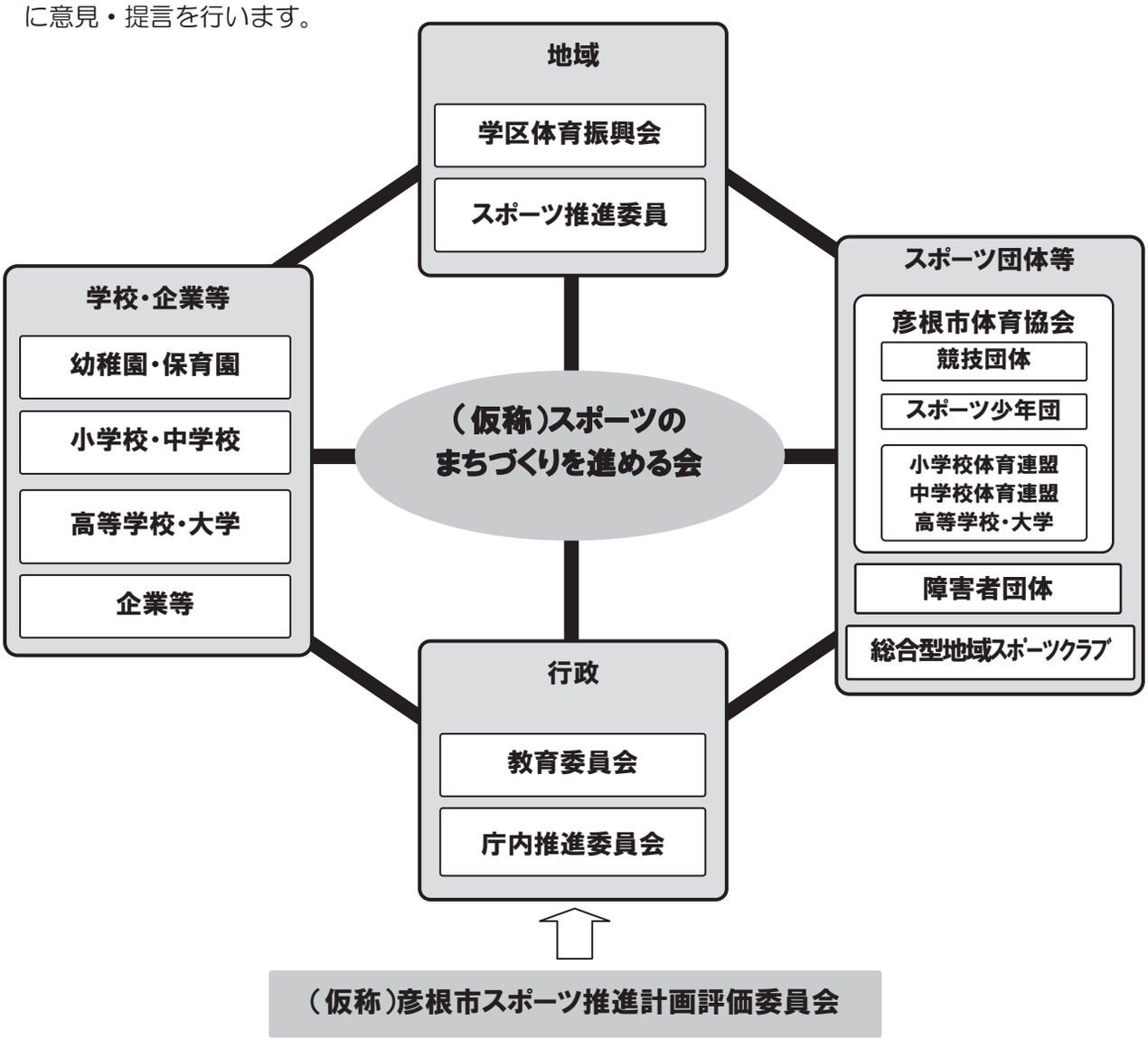
計画の推進にあたっては、現在、教育委員会を中心にスポーツ施策を推進していますが、スポーツ施策が多様化してきていることから、庁内推進委員会において、行政組織内の「横」の連携を図り、スポーツ施策の推進調整を行います。今後、大規模なスポーツ大会の開催およびスポーツを取り巻く動向を見据えながら、行政組織体制についても検討していきます。

スポーツ団体においては、彦根市体育協会を軸とした各競技団体、小学校・中学校体育連盟および市内高等学校・大学、スポーツ少年団、また障害者団体や総合型地域スポーツクラブ等、それぞれの特色を活かした活動を展開していきます。

併せて、地域に密着した学区体育振興会、活動支援や行政とのつなぎ役としてのスポーツ推進委員により地域のスポーツ活動をさらに推進していきます。

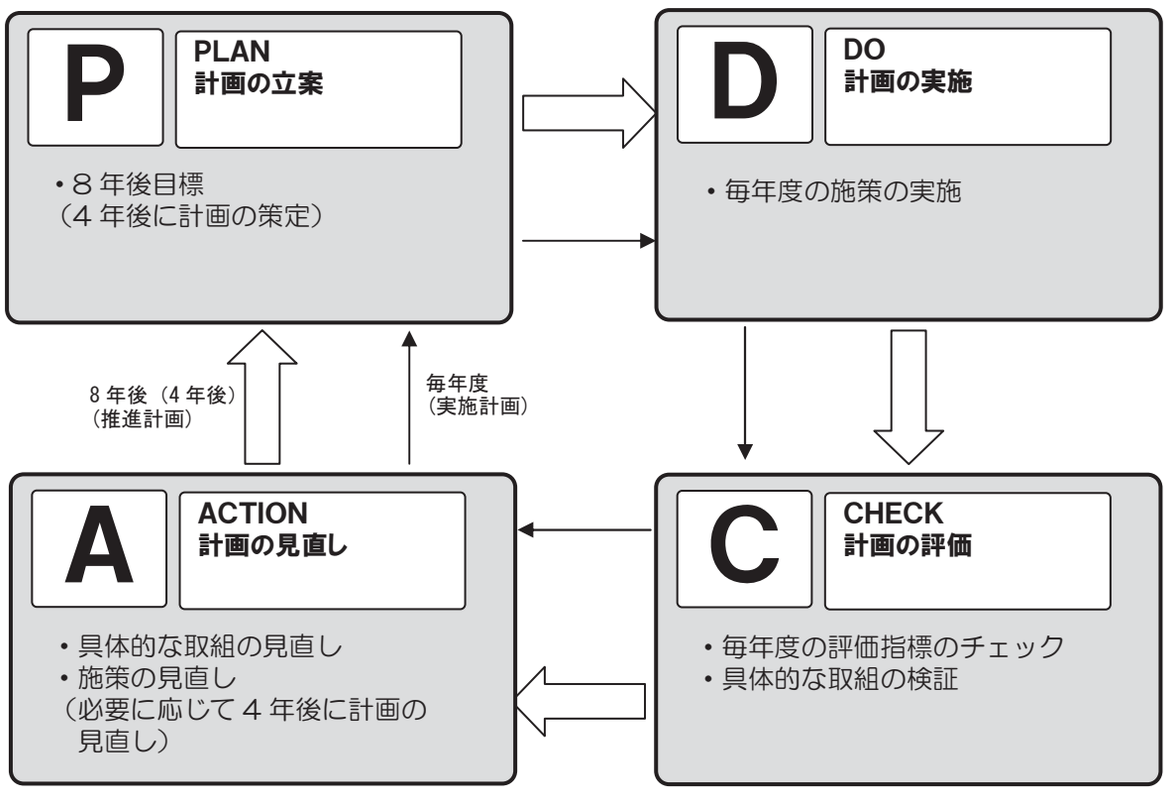
彦根市および市民・地域・スポーツ団体は、計画の将来像の実現に向け、連携協働しながら取組を進めていきます。また、より実効性を高めていくため、（仮称）スポーツのまちづくりを進める会において、現場レベルの情報も含めた連絡調整や、具体的な取組に向けた検討を行います。

スポーツ推進計画に基づいた、スポーツ推進の取組について、（仮称）彦根市スポーツ推進計画評価委員会に報告し、評価委員会は計画の進捗の評価を行うとともに、計画の改善等について、彦根市に意見・提言を行います。



2　計画の進行管理

計画の進行管理について、毎年度の実施計画に基づき施策を実施し、評価指標のチェックや取組状況の検証を行います。評価に基づき、具体的な取組について見直しを行いますが、必要に応じて４年後には計画の見直しを行うこととします。



参考資料

1　計画の策定経過

◆彦根市スポーツ推進計画策定委員会

第１回会議

日時：平成２８年(2016 年)８月５日(金)14:00～16:00

場所：彦根市民会館第３会議室

議題：(1)　委員会公開要領について

(2)　委員会の運営およびスケジュールについて

(3)　スポーツ推進計画策定の背景

(4)　彦根市のスポーツに関する現況

(5)　市民等意識調査の実施について

(6)　その他

第２回会議

日時：平成２８年(2016 年)11 月７日(月)10:00～12:00

場所：彦根市民会館第３会議室

議題：(1)　市民意識調査の結果について

(2)　スポーツ推進計画の骨子案について

(3)　その他

第３回会議

日時：平成２９年(2017 年)１月 25 日(水)10:00～12:15

場所：彦根市民会館第２会議室

議題：(1)　市民等意識調査の結果について

(2)　スポーツ推進計画素案(案)について

(3)　その他

第４回会議

日時：平成２９年(2017 年)２月 15 日(水)10:00～12:15

場所：彦根市民会館第２会議室

議題：(1)　スポーツ推進計画素案(案)について

(2)　その他

教育長への提言

日時：平成２９年(2017 年)２月 17 日(金)10:00～

○彦根市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱　（平成28年6月30日教委告示第14号）

（設置）

第1条　スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条第1項の規定により、彦根市のスポーツ推進の方向性を明らかにした彦根市スポーツ推進計画を策定するに当たり、幅広い観点から検討を行うため、彦根市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条　委員会は、教育委員会の求めに応じ、次に掲げる事項を調査検討し、教育委員会に提言するものとする。

(1)　スポーツ推進計画の策定に関すること。

(2)　その他委員長が必要と認めた事項に関すること。

(組織)

第3条　委員会は、委員10人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、または任命する。

(1)　学識経験を有する者

(2)　スポーツ関係団体等が推薦する者

(3)　市内に在住し、または在勤し、もしくは在学する者のうちから公募により選定する者

(4)　その他教育委員会が適当と認める者

(任期)

第4条　委員の任期は、委嘱または任命の日から第2条の規定による教育委員会への提言の日までとする。

(委員長および副委員長)

第5条　委員会に委員長および副委員長それぞれ1人を置き、委員の互選によって定める。

2　委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、または委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条　委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が必要に応じて招集する。

2　委員長は、会議の議長となる。

3　会議は、委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

4　会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条　委員会は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め意見を聴取し、または資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8条　委員会の庶務は、教育委員会事務局教育部保健体育課において処理する。

(その他)

第9条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

付　則

1　この告示は、平成28年6月30日から施行する。

2　この告示の施行後最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

彦根市スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

50 音順、敬称略

◎委員長、〇副委員長

	氏名	所属等	備考
1	伊妻　信康	彦根市中学校体育連盟	第 2 号委員
2	衣斐　隆	公益財団法人平和堂財団	第 4 号委員
3	榎本　雅之	公募委員	第 3 号委員
4	◎　小田柿　幸男	滋賀大学特任教授	第 1 号委員
5	〇　川合　英之	びわこ成蹊スポーツ大学教授	第 1 号委員
6	岸田　清次	彦根市身体障害者更生会	第 2 号委員
7	木ノ内　江以子	公募委員	第 3 号委員
8	谷澤　英之	彦根市スポーツ推進委員協議会	第 2 号委員
9	寺﨑　政子	彦根市体育協会	第 2 号委員
10	村田　絵美	滋賀県小学校体育連盟彦根支部	第 2 号委員

◆彦根市スポーツ推進計画庁内推進委員会等

第１回会議

日時：平成２８年(2016 年)10 月 13 日(木)14:00～15:30

場所：彦根市民会館第３会議室

内容：(1)　スポーツ推進計画策定の背景

(2)　彦根市のスポーツに関する現況

(3)　スポーツ関連施策の現状と今後の予定

第２回会議

日時：平成２９年(2017 年)１月 10 日(火)9:30～10:30

場所：彦根市民会館第３会議室

内容：(1)　スポーツ推進計画素案(案)について

庁内意見照会

期間：平成２９年(2017 年)１月 31 日(火)～２月７日(火)

内容：スポーツ推進計画素案(案)について

2　市民等意識調査の実施

◆一般市民

【調査対象】　市内在住の満 18 歳以上の市民 2,000 人を無作為抽出
【調査方法】　郵送による配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月 15 日～29 日
【有効回収率】49.8%

◆小学生

【調査対象】　市内１７小学校の５年生（各校１クラス）
【調査方法】　学校を通した配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬
【有効回収数】464 件

◆中学生

【調査対象】　市内７中学校の２年生（各校１クラス）
【調査方法】　学校を通した配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬
【有効回収数】204 件

◆スポーツ団体等

◇体育協会
【調査方法】　郵送による配布・回収、聞き取り
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬（郵送）、平成 28 年 11 月 11 日（聞き取り）

◇競技団体
【調査対象】　彦根市体育協会加盟の競技団体 29 団体
【調査方法】　郵送による配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬
【有効回収数】24 団体（82.8%）

◇学区体育振興会
【調査対象】　小学校区体育振興会 17 団体
【調査方法】　郵送による配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月中旬
【有効回収数】９団体（52.9%）

◇スポーツ少年団
【調査対象】　スポーツ少年団 19 団体
【調査方法】　郵送による配布・回収
【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬
【有効回収数】10 団体（52.6%）

◇小学校・中学校・高等学校・大学

【調査対象】　市内小学校 17 校・中学校７校・高等学校６校・大学３校

【調査方法】　郵送による配布・回収

【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬

【有効回収数】28 団体（84.8%）

◇総合型地域スポーツクラブ

【調査対象】　市内登録２団体

【調査方法】　郵送による配布・回収、聞き取り

【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬（郵送）、平成 28 年 11 月 11 日（聞き取り）

【有効回収数】２団体（100%）

◇スポーツ推進委員

【調査対象】　39 人

【調査方法】　郵送による配布・回収

【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬

【有効回収数】26 人（66.7%）

◇民間スポーツ施設等

【調査対象】　26 団体

【調査方法】　郵送による配布・回収、１団体聞き取り

【調査期間】　平成 28 年９月中旬～10 月上旬（郵送）、平成 28 年 11 月 16 日（聞き取り）

【有効回収数】８団体（30.8%）

3　指標一覧

		指標名	現状値(平成27年度)	中間目標値(平成32年度)	指標の説明	算出方法、出典等
1	子どもの 運動・スポーツの推進	新体力テスト(小5)	男子54.2点 女子54.8点 〈参考〉 国:男子54.98点、女子56.25点(H28) 県:男子52.91点、女子53.77点	男子　56点 女子　57点 〈参考〉 県:全国平均を上回る(H29目標)	児童の運動能力の状況がわかります。	「全国体力・運動能力調査」より
		運動・スポーツの実施率 (週3回以上:小5)	51.5%　※	60%	学校の休み時間や体育の授業以外での運動・スポーツの実施状況がわかります。	「子どもアンケート調査」より
		外部指導者の活動日数	330日	600日	中学校部活動の専門的な指導の充実度合いがわかります。	のべ活動日数
2	ライフステージ、ライフスタイルに応じた スポーツ活動の推進	運動・スポーツの実施率 (週1回以上:成人)	41.9%　※ 〈参考〉 国:40.4% 県:36.0%(H28)	60% 〈参考〉 国:65%程度(H33目標) 県:国の実施率を上回る(H29目標)	成人の運動・スポーツの実施状況がわかります。	「市民アンケート調査」より
		65歳以上人口に対する要介護等認定者数の割合	17%	19% 〈参考〉 総合計画:指標19.0%	介護予防事業実施の成果がわかります。	要介護等認定者数／65歳以上の人口
		障害者スポーツ大会等参加者数	395人	450人	障害者スポーツ大会等への参加状況がわかります。	全国、県、市の障害者スポーツ大会等の参加者数
		トップアスリートとの交流の機会の回数	2回	4回	市民とトップアスリートとのふれあいの機会創出の成果がわかります。	実施回数
		元気フェスタ参加者数	2,898人	3,000人 〈参考〉 総合計画:指標3,000人	誰もが楽しめるスポーツイベントへの参加状況がわかります。	元気フェスタスポーツ部門の参加者数
3	地域が主体となった 市民スポーツの推進	地域スポーツイベント参加者数	18,586人	22,000人	地域でのスポーツ活動の状況がわかります。	学区で実施されるスポーツイベント等の参加者数
		スポーツ少年団加入率(小6)	18.4%	25%	子どもの学校以外のスポーツ活動の状況がわかります。	加入者数／小6児童数
		スポーツイベントでのボランティア活動者数	18人	50人	スポーツボランティアの活動状況がわかります。	市内で開催されるスポーツイベント等へのボランティア参加者数
4	身近なスポーツ環境の 充実	スポーツの観戦者率	27%　※	35%	市民のスポーツ観戦への関心度合いがわかります。	「市民アンケート調査」より
		社会体育施設利用者数	29,229人 (体育センター81,010人)	35,000人	社会体育施設の利用状況がわかります。	市所有の体育施設利用者数
		スポーツに関する市ホームページアクセス数	30,378回	40,000回	市民のスポーツへの関心度合いがわかります。	市ホームページアクセス数
5	スポーツを活かした まちづくりの推進	スーパーカロム大会参加者数	208人	250人	市の特色を活かしたスポーツ大会の定着度合いがわかります。	大会参加者数
		レンタサイクル利用者数	2,732人	3,000人	スポーツツーリズム等によるレンタサイクルの活用状況がわかります。	レンタサイクル利用者数

※　平成28年度

彦根市スポーツ推進計画

発　　行：彦根市
編　　集：彦根市教育委員会事務局教育部保健体育課
住　　所：〒522-0001
滋賀県彦根市尾末町１番38号
ＴＥＬ：(0749)24-7975
ＦＡＸ：(0749)23-9190
発行年月：平成29年(2017年)7月

彦根市スポーツ推進計画